

# すずむし

第118号

(創立30周年記念号)

1982年10月

倉敷昆虫同好会

## 第118号 目 次

倉敷昆虫同好会：岡山県内ホタル生息調査報告	1
倉敷昆虫同好会：岡山県のスズムシ現況調査報告	16
倉敷昆虫同好会：創立30周年記念講演について	21
浅野憲一・渡辺和夫・吉原和美：創立30周年記念 台湾採集旅行の報告	25
及川正博：台湾のクマゼミとニイニイゼミ	41
岡島秀紀：ヒョウモンモドキの飼育による知見一飼育二化について	53
原田裕康：岡山県中南部における未記録の昆虫	57

### おとしふみ（短報）

中村具見：鳥取県西部のキリシマミドリー産地	24
及川正博：岡山市内でスミナガシとアオバセセリを採集	44
及川正博：アオスジアゲハの異常型を採集	44
風早保男：アオスジアゲハの斑紋異常型	45
岡田耕一：岡山県でナガサキアゲハの越冬を確認	45
岡田耕一：ナガサキアゲハの分布と生態について	47
山地治：チャイロホソヒラタカミキリの記録	48
織田明文：ウラナミジャノメの2化を採集	49
織田明文：ミヤマチャバネセセリを岡山市内で採集	50
中村具見：テングヨウの第2化について	50
中村具見：岡山市内のムラサキツバメ	51
尾関啓吉：滝山において採集したチョウ	52
門田享：岡山県西部におけるゴマシジミの採集例	52
赤枝一弘：大多府島（和気郡日生）を訪ねて	55
河邊誠一郎：南西諸島のカクモンシジミ	56
熊野皓夫：ハネビロトンボ倉敷市の南部白尾で初採集	60
尾関啓吉：赤磐郡でウスバシロチョウ	60
尾関啓吉：日名倉山のコキマダラセセリ	60
那須敏・山地治：訂正とお詫び	51

No. 118

# す ず む し

Oct. 1982

## 岡山県内ホタル生息調査報告

**倉敷昆虫同好会**

### I. はじめに

倉敷昆虫同好会では創立30周年記念行事の一つとして1980, 1981両年にわたって岡山県内におけるホタルの分布生息状態現況調査を実施することを企画した。

特に、幼虫が水生のゲンジボタル、ヘイケボタルの2種については農薬等の影響による減少が指摘されて久しく、また、河川改修に伴う護岸工事などによっても生息環境を奪われやすい条件下にあり、両2種の現況把握は自然環境保全の重要性が広く一般に認識されつつある今日、意義深いものと考えられた。併せて、陸生ではあるが、既知生息地の少ないヒメボタルを加えて合計3種を調査の対象とした。

調査にあたっては新聞社、放送局からの協力を得、会員に限らず広く一般の人々から多くの資料をいただいた。関係マスコミ機関各位および趣旨に賛同され、こころよく資料を提供された方々に対し厚くお礼を申し上げる次第である。

### II. 現況調査結果の記録

この調査では分布地のほか、成虫の発生量、発生期についても概略を把握したいものと考えた。

発生量については観察の際、一地点より発光個体を数え、その数量を次の3段階に分けて記録した。

- ① 5頭以内。
- ② 5頭以上だが何とか数えられる。
- ③ 数えるのが困難なくらい多い。

分布地については小字名まで表現することを原則とし、発生期についてはその基礎資料となる観察・採集年月日を記録した。

調査データは分布地、発生量、採集個体数、観察・採集年月日、観察・採集者の順に記し、未尾の観、採の文字はそれぞれ観察、採集の意味に使ってある。

なお、調査期間中以外の資料が若干あり、それらも内容充実の観点から本報告中に包含させるとともに、既発表のものについては著者名と発表年を示しておいた。

### ゲンジボタル *Luciola cruciata*

- 阿哲郡哲多町矢戸只野 ② 3 exs. 1980 - VI - 10 清水計雄採.
- 新見市草間羽代羽代橋より約300m 上下 ③ 2 exs. 1980 - VI - 14 田井正雄採.
- 真庭郡川上村西茅部大蛇 ③ 1980 - VII - 2 蒜山中学校野外クラブ観・山田信光報告.  
川上村西茅部いなり橋上下 ② 1980 - VI - 19 角田慎也観・徳山鎮也報告.  
同 ② 1980 - VI - 20~1980 - VII - 7 角田慎也観・徳山鎮也報告.
- 川上村上福田かじや橋上下 ② 1980 - VI - 18 1980 - VI - 21・22 1980 - VI - 26・27  
1980 - VII - 4・5 徳山鎮也観.
- 川上村上徳山延助 ① 1980 - VI - 19 徳山鎮也観.
- 同 ② 1980 - VI - 20 1980 - VII - 7~9 1980 - VII - 12~17 徳山鎮也観.
- 川上村上徳山内海峰 1♀ 1982 - VII - 18 青野孝昭採.
- 八束村下福田下井川 ③ 1980 - VII - 2 蒜山中学校野外クラブ観・山田信光報告.
- 八束村下福田千町橋 ② 1980 - VI - 18~21 1980 - VI - 23 1980 - VI - 25~28 1980  
- VII - 12 御船浩一観・徳山鎮也報告.
- 同 ① 1980 - VI - 22・24・29・30 御船浩一観・徳山鎮也報告.
- 八束村中福田とん崎橋 ② 1980 - VI - 19・21・23・28 浜竹龍介観・徳山鎮也報告.
- 八束村上長田吉森 ② 1980 - VI - 25・26 柴田由佳子観・徳山鎮也報告.
- 八束村富掛田前掛田の旭川 ② 1980 - VI - 18・19・20・24・25・26・28・29 1980 - VII  
- 2・3・6・7・10・12・16・17・20 池田英昭観・徳山鎮也報告.
- 同 ① 1980 - VI - 21・22・27・30 1980 - VII - 1・4・5・8・9・11・14・15・18・  
19・21・22 池田英昭観・徳山鎮也報告.
- 八束村塩釜 alt. 500m 1ex. 1972 - VII - 26 桂孝次郎外 (1973). 環境庁 (1979)
- 苦田郡岡山県森林公園 1ex. 1981 - VII - 12 青野孝昭採.
- 鏡野町 (郷の源氏螢) 文化庁 (1970)
- 鏡野町六ヶ郷 環境庁 (1979)
- 勝田郡勝北町中村勝加茂小学校運動場 ① 1ex. 1980 - VI - 15 平田光夫採.
- 勝北町中村勝加茂小学校西100m 広戸川土手 ① 2 exs. 1980 - VI - 13 久世隆採.
- 勝北町杉の宮広戸川の川畔 ① 1ex. 1980 - VI - 23 岩田明江採.
- 勝央町・奈義町 (滝川ホタル) 文化庁 (1970). 環境庁 (1979)
- 英田郡英田町福本 3 exs. 1980 - VI - 21 渡辺昭彦・山地治採.
- 川上郡備中町平川下郷幅 5~6 m の小川 ② 1ex. 1980 - VI - 27 泉修平採.
- 備中町布瀬中布瀬富家小学校前付近の布瀬川 ② 1980 - VI - 10ごろより発生 高見正夫  
観.
- 備中町長谷 ② 1980 - VII - 1~5 喜多舒彦観.
- 高梁市中井町花木津々川 ③ 1980 - VI - 14 田井正雄観
- 津川町今津佐与谷 4 exs. 1980 - VI - 28 川上市松採.
- 小高下 ① 1980 - VI - 28 青野孝昭観.

**上房郡** 北房町（湯川ホタル）文化庁（1970）、環境庁（1979）

賀陽町畠谷 ① 1981 - VI - 20 中村具見観.

賀陽町水砂 ① 1981 - VI - 20 中村具見観.

**津山市** 高野本郷 ③ 4 exs. 1980 - VI - 1 久世 隆採.

同 ③ 7 exs. 1980 - VI - 11 久世 隆採.

同 ③ 2 exs. 1980 - VI - 15 井上章子採.

**後月郡** 芳井町下鳴橋 1 ex. 1980 - VI - 4 新田 進採.

芳井町宇戸川 ① 1975 - V - 25 勝野靖司観.

同 ③ 1975 - VI - 1 勝野靖司観.

同 20♂20♀ 1975 - VI - 11 勝野靖司採.

**小田郡** 矢掛町小田八幡谷 ② 1980 - VI - 1 辻修太郎採.

矢掛町上高未奥田 ③ 3 exs. 1980 - VI - 14 長谷川二次子採.

矢掛町下高未上高階 ② 1980 - VI - 14 長谷川二次子観.

矢掛町川面のあたり 数年前までは③ 川にコンクリート工事した現在（1980 - VI - 7）  
では全く見られない 岡本 篤観.

矢掛町川面上流の仏田あたり ② 1980 - VI - 7 岡本 篤観.

矢掛町宇内 ③ 3 exs. 1980 - VI - 21 高見 透採.

美星町鬼ヶ岳ダム上流1km橋のところ ③ 1978 - VIまで 岡本 篤観.

同 ① 2 exs. 1980 - VI - 7 岡本 篤採.

美星町黒忠八日市～妙見原 ③ 1980 - VI - 25～30 喜多舒彦観.

**総社市** 見延三ツ木 ① 1 ex. 1976 - VI - 20 青野孝昭採.

豪溪 ① 1981 - VI - 20 中村具見観.

豪溪中島 環境庁（1979）

久米新聞 1 ex. 1980 - VI - 16 江本潔江採.

**御津郡** 加茂川町 ① 1 ex. 1980 - VI - 20 池田昇市採.

建部町川口 5 exs. 1980 - VI 中原君子採.

御津町野々口 2 exs. 1980 - VI - 3 安藤奈美・安藤 愛採.

赤磐郡吉井町仁堀 1 ex. 1980 - VI - 21 渡辺昭彦・山地 治採.

瀬戸町宿奥 1 ex. 1980 - VI - 13 中尾俊直採.

**和気郡** 和気町木倉西谷 2 exs. 1980 - VI - 1 延藤輝雄採.

浅口郡金光町上竹 1 ex. 1976 - VI - 11 青野孝昭採.

**都窪郡** 清音村黒田 ② 4 exs. 1976 - VI - 11 青野孝昭採.

早島町矢尾 1 ex. 1980 - VI - 8 中野貴由採.

**倉敷市** 小黒田 ① 1 ex. 1976 - VI - 11 青野孝昭採.

同 青野孝昭・小野 洋（1976）[1 ex. 1948 - VI - 19 青野孝昭採]

児島宇野津 1 ex. 1980 - VI - 5 梶田勝志採.

児島上之町山根 ③ 1980 - VI - 27～VII - 28 1 ex. 1980 - VII - 17 熊野皓夫採.

児島上之町白尾 ③ 1980 - VI - 25～VII - 24 1 ex. 1980 - VII - 13 熊野皓夫採.

- 児島由加山 岡山県環境部自然保護課 (1977) 倉敷昆虫館 (1978) 岡山県環境保健部自然保護課 (1981)
- 尾原 1973 - VI 青野孝昭 (1976)
- 岡山市** 玉柏河本～平瀬 ② 6 exs. 1980 - VI - 9 加藤文晴採.
- 津島半田山 環境庁 (1979)
- 原船山 ① 1980 - VI - 9 加藤文晴観.
- 大井 ③ 2 exs. 1980 - VI - 9 黒田美穂採.
- 玉柏 ② 1980 - VI - 14 河辺誠一郎観.
- 笠井山 ② 1980 - VI - 14 河辺誠一郎観.
- 兼基鳥坂山の溪流そば ② 每年5月終り～7月はじめごろ 1ex. 1980 - VI - 4 佐々木武郎観.
- 足守筒井坂日近川沿い ② 2 exs. 1980 - VI - 2 守安晴美採.
- 今在家祇園用水の枝川 3 exs. 1980 - VI - 9 湯浅久子採.
- 別所 2 exs. 1976 - VI - 16 青野孝昭採.
- 西山内 ② 1ex. 1976 - VI - 16 青野孝昭採.
- 西山内 (大向, 浮田, 大塚)・堂坂 11 exs. 1980 - VI - 13 白神 淳採.
- 堂坂 ② 1976 - VI - 16 青野孝昭観. 環境庁 (1979)
- 湯迫 ② 1981 - VI - 6 鈴木健二観.
- 中島 ③ 1981 - VI - 6 鈴木健二観.
- 賞田 1980 - VI 上旬 有森節子観.
- 同高島神社前 ② 1981 - VI - 6 鈴木健二観.
- 古都宿 ① 1980 - VI - 13 中尾俊直観.
- 金山 岡山県環境保健部自然保護課 (1980) [1979 - VI - 19 宇野弘之採]
- 金甲山 1ex. 1975 - VI - 19 宇野弘之採. 環境庁 (1979)
- 同 岡山県 (1977) 倉敷昆虫館 (1978)
- 東片岡 ② 1980 - VI - 12 那須 敏観.
- 猿見 岡山県 (1977) 倉敷昆虫館 (1978)
- 児島郡難崎町 ③ 1ex. 1980 - VI - 8 石井敏美採.
- 玉野市** 山田上山田 1ex. 1980 - VI - 28 平岡正行採.
- 備前市閑谷 岡山県環境保健部自然保護課 (1982) [1ex. 1979 - VI - 24 重井 博採]
- 佐山三ツ松鍛冶級池下の川 1ex. 1980 - VI - 5 谷口淳真採.
- 蕃山門前 ③ 6 exs. 1980 - VI - 13 山崎 衛採.
- 邑久郡長船町福岡 ① 1♀. 1980 - VI - 22 原田裕康採.

### ヘイケボタル *Lucioia lateralis*

- 阿哲郡哲多町蚊家舟原 ② 2 exs. 1975 - VII - 12 青野孝昭採.
- 哲多町蚊家川上 ① 1ex. 1975 - VII - 12 青野孝昭採.
- 真庭郡新庄村田浪 alt. 720m ① 1ex. 1981 - VIII - 9 青野孝昭採.

- 川上村西茅部大蛇丸山橋 ③ 1980 - VII - 2 蒜山中学校野外クラブ観・山田信光報告.
- 八束村下福田下井川旭橋下流 ③ 1980 - VII - 2 蒜山中学校野外クラブ観・山田信光報告.
- 勝田郡**勝北町中村勝加茂小学校西100m広戸川土手 ① 2 exs. 1980 - VI - 13 久世 隆採.  
勝北町中村金森山(通称しろん谷) ① 1980 - VI - 24 青山美穂子採.
- 英田郡**西栗倉村影石谷口 1 ex. 1976 - VII - 24 青野孝昭採.
- 川上郡**備中町平川下郷 ② 1 ex. 1980 - VI - 27 泉 修平採.
- 津山市**高野本郷 ③ 4 exs. 1980 - VI - 11 久世 隆採.  
同 ③ 1980 - VI - 1 井上章子観.
- 上房郡**賀陽町畠谷 ① 1981 - VI - 20 中村具見観.
- 小田郡**矢掛町矢掛宮ノ下 1 ex. 1980 - VI - 23 3年D組生採・大森公子報告.
- 矢掛町小林 ③ 1980 - VI - 18 藤岡坂江観.
- 吉備郡**真備町尾崎 1 ex. 1980 - VII - 12 水川市郎採.
- 総社市**窪木南條西 ③ 10年程前 倉森昌子観.  
同 ② 2 exs. 1980 - VI - 5 倉森昌子採.
- 久米新開 1 ex. 1980 - VI - 16 江本潔江採.
- 都窪郡**早島町矢尾 ② 3 exs. 1980 - VI - 8 中野貴由採.
- 赤磐郡**吉井町塩木 1 ex. 1980 - VI - 21 渡辺昭彦・山地 治採.
- 浅口郡**鴨方町鴨方 ② 1 ex. 1980 - VI - 4 小川初夫採.  
鴨方町益坂 ② 1980 - VI - 4 小川初夫採.
- 里庄町新庄狭田俗称カマ池畔 ② 3 exs. 1980 - V - 31 安原清隆採.
- 船穂町船穂小学校付近 ② 1 ex. 1980 - VI - 5 秋山樹石採.
- 船穂町田ノ内 1 ex. 1980 - VI - 29 近藤光宏観.
- 倉敷市**玉島陶寒田 青野孝昭(1982) [2 exs. 1980 - VI - 29 近藤光宏採]  
玉島陶藏本 青野孝昭(1982) [1 ex. 1981 - VI - 23 青野孝昭採]  
玉島服部 1 ex. 1980 - VII - 18 佐守純子採.  
同 青野孝昭(1982) [1 ex. 1976 - VI - 12 近藤光宏採]  
玉島長尾 ② 2 exs. 1980 - VI - 12 柚木博光採.
- 酒津 16 exs. 1980 - V - 30 原田杜子史採.  
同 1 ex. 1980 - VI - 5 小野 洋採.  
同 1 ex. 1980 - VI - 12 小野 洋観.  
同 1 ex. 1980 - VII - 13 小野 洋採.
- 大内 2 exs. 1980 - VI - 9 青野孝昭観.  
浅原 3 exs. 1976 - VIII - 1 宇野弘之採.
- 西坂菅生団地周辺 ② 2 exs. 1980 - VI - 7 山下恭一採.
- 浜ノ茶屋 ① 1980 - V - 27 河辺誠一郎観.
- 上富井農業用水路 ③ 1978 川崎 明観.  
同 ② 1979 川崎 明観.

- 同 ② 1980 - V - 26 川崎 明觀. 2年程前から、たくさん観ている.  
 粒江黒石 1ex. 1980 - VI - 5 三宅克正採.  
 粒江中村 ① 1ex. 1980 - VI - 19 青野孝昭採.  
 同 2 exs. 1980 - VI - 29 羽原幹郎採.  
 福田町元古新田古城池 2 exs. 曾我部和代採.  
 同 2 exs. 1980 - VI - 12 青野孝昭観.  
 串田西 宇野佐登美觀.  
 木見 ③ 1ex. 1980 - VI - 14 三沢智恵採.  
 由加山少年自然の家キャンプ場 ① 1ex. 1980 - VII - 22 青野孝昭採.  
 児島稗田馬場 ① 1980 - VII - 1~20 熊野皓夫観.  
 同 1ex. 1980 - VII - 14 熊野皓夫採.  
 児島柳田町小原池 ① 1980 - VII - 10~20 熊野皓夫観.  
 同 1ex. 1980 - VII - 14 熊野皓夫採.  
 児島味野1丁目 1ex. 1980 - VI - 21 矢木正昭採.  
 児島阿津3丁目 1ex. 1980 - V - 31 藤田徃嗣採.  
 児島塩生田渕 9 exs. 1980 - VI - 15 松井千桂採.  
**岡山市金山** 岡山県環境部自然保護課 (1980) [1979 - VI - 19 宇野弘之確認]  
 同 ② 1ex. 1975 - VI - 19 宇野弘之採.  
 上段の1979年はミスプリント、1975年が正しい.  
 原磯尾 ② 2 exs. 1980 - V - 28 加藤文晴採.  
 同 ② 1980 - VI - 9 加藤文晴観.  
 玉柏河本～平瀬 2 exs. 1980 - VI - 9 加藤文晴採.  
 今在家 4 exs. 1980 - VI - 11 湯浅久子採.  
 南方4丁目 2 exs. 1980 - VI - 16 小田浩恵観.  
 高松稻荷 ② 8 exs. 1980 - VI - 11 犬飼三喜子採.  
 西大寺西庄 ② 1980 - V - 26~29 那須 敏観.  
 東片岡大王寺 ② 1980 - VI - 12 那須 敏観.  
**西片岡** パシフィック航業株式会社 (1981) [1ex. 1980 - VI - 14 青野孝昭採]  
 君津 ② 1982 - V - 20 那須 敏観.  
**玉野市田井** 2 exs. 1980 - VI - 28 小亀順子採.  
 山田 ① 1ex. 1980 - VI - 28 平岡正行採.  
 四井手 ③ 1ex. 1980 - VII - 10 熊野皓夫採.  
**邑久郡長船町西須恵花尻** ② 1ex. 1980 - VI - 1 山本澄子採.  
 同 ③ 2 exs. 1980 - VI - 9 山本澄子採.  
 長船町福岡 ① 1981 - VI - 16 原田裕康採.  
 長船町天王宮 環境庁 (1979)  
 邑久町豊原円張 2 exs. 1980 - VI - 1 小林恭子採.  
 邑久町下山田幸田木 ② 1974 - VI頃 原田裕康観.

牛窓町幡蕪崎 ① 1981 - VII - 7 原田裕康観.  
**備前市佐山三ツ松鍛冶級池下の川** ① 2 exs. 1980 - VI - 5 谷口淳真採.  
 穂浪 1 ex. 1980 - VI - 1 子川多恵子観.  
 同 ① 1980 - VI - 8・9 子川多恵子観.  
 同 15 exs. 1980 - VI - 12 子川多恵子観.  
 いずれも 3 m ぐらいの川幅の新田川、川辺のくさむらで観察.

### ヒメボタル *Hotaria parvula*

**真庭郡毛無山** 秋山博志 (1961) [1 ex. 1961 - VII - 31~VIII - 2 秋山博志採]  
 同 岡山県環境部自然保護課 (1977)  
 同 倉敷昆虫館 (1978)  
 同 岡山県環境保健部自然保護課 (1981)  
 同 岡山県環境保健部自然保護課 (1982) [1 ex. 1979 - VII - 20 青野孝昭採]  
**阿哲郡哲多町蚊家天王八幡神社** 文化庁 (1970)  
 同 岡山県環境部自然保護課 (1977)  
 同 倉敷昆虫館 (1978)  
 同 岡山県環境保健部自然保護課 (1981)  
 同 6 exs. 1975 - VII - 12 青野孝昭採.  
 同 ③ 1980 - VII - 10 河辺誠一郎観.  
**英田郡西粟倉村若杉原生林** 岡山県環境部自然保護課 (1977)  
 同 倉敷昆虫館 (1978)  
 同 1 ex. 1976 - VII - 25 重井 博採.  
 西粟倉村ミソギ峠 1 ex. 1976 - VII - 27 宇野弘之採.  
**高梁市臥牛山** 5 exs. 1980 - VI - 28 宇野弘之・青野孝昭採.  
**上房郡北房町井殿** 2 ♀ 1 ♂ 1981 - VII - 16 青野孝昭採.  
**和気郡吉永町滝谷神社社叢** 岡山県環境部自然保護課 (1977)  
 同 倉敷昆虫館 (1978)  
 同 岡山県環境保健部自然保護課 (1982) [3 exs. 1976 - VII - 11 青野孝昭採]  
**岡山市金甲山** 赤枝一弘 (1970) [1968 - VI - 29 赤枝一弘採]  
 同 岡山県環境部自然保護課 (1977)  
 同 倉敷昆虫館 (1978)

### III. 考 察

#### 1. 分 布

既に文献に明白に示されている地点と、この度の調査で新しく確認された生息地から岡山県内における分布図を作製した(図1~3).

黒丸印は観察または採集地点を示しているが、調査の対象としたゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルのいずれの種も県北地方から県南地方にかけて広く拡散しており、少

なくとも県内にあっては県北、県南の別なく、いずれの地方においても生息条件の満たされる素地は備えているものと考えられる。

ゲンジボタルについては吉備高原地域の清流域からの報告例が最も多い、それはゲンジボタルの習性からも当然なこととして了解されるが、一方、瀬戸内沿岸地方においても丘陵山地の渓流地に生息地が点在しており、見落しやすい事実として注目すべきことがらであろう。

岡山市、倉敷市等の県南平野部の市街地や田園地帯からは、今回の調査を通して殆んど生息確認の報告はなく、あったとしても、岡山市今在家や賞田の例のように旭川本流から取り入れた用水路の上流域に限られており、市街地やその下流でゲンジボタルの姿を見ることは、かなわぬ願いと言わざるをえまい。

中国山地の分布空白地帯についてはゲンジボタルがないというよりも、調査不行き届きに帰せられるべきで、今後の調査に期待したい。

ハイケボタルについては県南地方から多くの生息地が確認された。平野部の市街地からは生息確認の報告はほとんどみられなかつたが、山間や丘陵地に接した池、小川、水田等には多くの生息地があることが判明した。

県北の毛無山山麓部あるいは英田郡西粟倉村などからも標本は得られており、今回の調査では資料の集まりがわるかっただけでなく、中部地方においても、決してハイケボタルがないのではなく、調査不足による空白地帯であろうことはゲンジボタルの場合と同様である。

ヒメボタルについてはこれまでの知見に加えて、高梁市臥牛山と上房郡北房町井殿鐘乳穴周辺が新しく生息地として記録された。ヒメボタルのメスは飛翔用の後翅がなく、したがって移動性が小さい、幼虫が森林下などの湿潤な環境を好む陸生巻貝類を食餌としている習性とあいまって、その分布パターンには特に興味が持たれる。

## 2. 発生量

この度の調査では発生量の概略を把握する手段として、3段階の基準（即ち、ひとめで見て、①……5頭以内、②……5頭以上だが何とか数えられる、③……数えられないほど多い）を設けた。実際には成虫の発生時期、活動時間、見渡すことのできる視界などの要因によっても目撃される個体数は変動するので、調査結果の信頼度には限界があることを考慮しておく必要がある。

### ゲンジボタル *Luciola cruciata*

数えきれないほど多いという③段階に評価された地点は次の14か所であった。

- (1) 新見市草間羽代橋より約300m 上下
- (2) 真庭郡川上村西茅部大蛇
- (3) 真庭郡八束村下福田下井川
- (4) 高梁市中井町花木津々川
- (5) 津山市高野本郷
- (6) 後月郡芳井町宇戸川



図1 ゲンジボタル *Luciola cruciata* の岡山県内における分布



図2 ヘイケボタル *Luciola lateralis* の岡山県内における分布



図3 ヒメボタル *Hotaria parvula* の岡山県内における分布

- (7) 小田郡矢掛町上高未奥田
- (8) 小田郡矢掛町宇内
- (9) 小田郡美星町黒忠八日市～妙見原
- (10) 倉敷市児島上之町山根
- (11) 倉敷市児島上之町白尾
- (12) 岡山市大井
- (13) 児島郡難崎町
- (14) 備前市蕃山門前

注目すべき報告として次の2例がある。

- A. 小田郡矢掛町川面のあたりでは数年前までは③段階であったのに、川にコンクリート工事が施された1980年6月7日現在は全く姿を見ることができなかった。
- B. 小田郡美星町鬼ヶ岳ダム上流1kmの橋のところでは1978年6月までは③段階であった。しかし、1978年当時には川に洗剤の泡が淀んでおり、心配していたが、1980年6月7日現在では①段階であった。

特にAの例ではゲンジボタルの消滅と河川改修工事との因果関係がはっきりしており、これまでにも指摘されてきた問題点が、ここでも明らかな事実として実証されている。

#### ハイケボタル *Luciola lateralis*

ゲンジボタル同様、③段階に評価された地点のみを拾ってみると、次の7か所となる。

- (1) 真庭郡川上村西茅部大蛇丸山橋
- (2) 真庭郡八東村下福田下井川旭橋下流
- (3) 津山市高野本郷
- (4) 小田郡矢掛町小林
- (5) 倉敷市木見
- (6) 玉野市四井手
- (7) 邑久郡長船町西須恵花尻

ハイケボタルはゲンジボタルよりも、より開かれた平地的地形の水系にすむ傾向があり、それだけに人為の影響を受け易く、したがって群生地も減り易い条件下にさらされていると判断される。

ハイケボタルについても、年次経過を伝える報告があつて注目された。

- A. 総社市窪木南條西では10年前は③段階であったが、1980年6月5日現在では②段階である。

B. 倉敷市上富井農業用水路では1978年が③段階、1979・1980両年はいずれも②段階であり、ここでは1978年ごろからたくさん観察されている。

特に、後者の報告は最近になってハイケボタルが復活したことを伝えており、農薬の毒性規制以後の自然復活の実態を伝える一事例として注目に値する。

#### ヒメボタル *Hotaria parvula*

ヒメボタルの群生地として岡山県天然記念物にも指定されている阿哲郡哲多町蚊家天王八幡神社の社叢では1980年7月10日においても③段階であることが観察された。

そのほか、新しく発見された高梁市臥牛山、上房郡北房町井殿でも相当の個体数が観察されている。

### 3. 成虫の発生期

県北地方と県南地方とでは成虫発生期に差があると考えられるが、現在の資料数ではややデータ不足の觀があるため、県下を一括してまとめた（図4）。

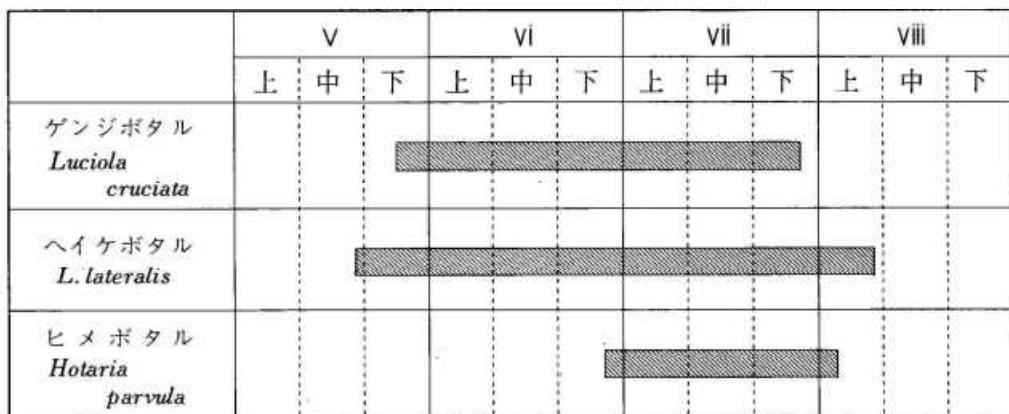


図4 岡山県におけるホタル3種の成虫出現期

#### ゲンジボタル

初見は後月郡芳井町宇戸川における1975年5月25日の観察例があり、終見記録としては倉敷市児島上之町山根における1980年7月28日の報告例がある。

#### ハイケボタル

初見は岡山市君津における1982年5月20日の観察例があり、終見としては真庭郡新庄村田浪 alt. 720mにおける1982年8月9日の採集記録がある。

#### ヒメボタル

初見については高梁市臥牛山における1980年6月28日の採集記録、終見については真庭郡新庄村毛無山における1961年8月1～2日の採集記録がある。

## V. 資料提供者名簿

この度の調査にあたっては、冒頭にも触れたように会員外の多くの方々からも貴重な資料をいただいた。会員、一般を問わず、ここに資料提供者の名簿を作成し、重ねて、ご芳志に対し深い感謝の意をあらわします。

青野 孝昭

安藤 愛

青山 美穂子

安藤 奈美

秋山 樹石

池田 昇市

秋山 早雄

池田 英昭

有森 節子

石井 健二	重井 博 柴田由佳子
石井 敏美	清水 計雄
泉 修平	清水 慶治
犬飼三喜子	
井上 章子	白神 淳
岩田 明江	鈴木 健二
宇野佐登美	角田 慎也
宇野 弘之	
江尻 好	曾我部和代
江本 潔江	田井 正雄
大森 公子	高見 透
岡本 篤	高見 正夫
小川 初夫	谷口 淳真
小田 浩恵	辻 修太郎
小野 洋	常藤 佳明
梶田 勝志	
勝加茂小学校	鶴見百合子
勝野 正美	徳山 鎮也
加藤 文晴	中尾 俊直
川上 市松	中野 貴由
川崎 明	
河辺誠一郎	中原 君子
喜多 舒彦	中村 具見
久世 隆	那須 敏
熊野 晃夫	新田 進
倉森 昌子	子川多恵子
小亀 順子	延藤 輝雄
小林 恭子	長谷川二次子
近藤 光宏	
佐々木武郎	服部まち子
佐守 純子	羽原 幹郎
	浜竹 龍介

原田 杜子史	三宅 克正
原田 裕康	守安 晴美
日玉 武志	矢掛中学校 3年D組
平岡 正行	
平田 光夫	矢木 正昭 711
蒜山中学校野外クラブ	
	安原 清隆
藤岡 坂江	山崎 衛
	山地 治
藤田 往嗣	山下 恭一
松井 千佳	山田 信光
松岡 克守	山本 澄子
三沢 智恵	湯浅 久子
水川 市郎	柚木 博光
御船 浩一	渡辺 昭彦
	渡辺 チエ

## 文 献

1. 秋山博志 (1961) 毛無山付近採集小記. すずむし, 11 (1) : 3~6.
2. 青野孝昭 (1976) 由加山の甲虫. 倉敷の自然: 221~228.
3. ——— (1982) 弥高山山系の甲虫. 倉敷の自然: 81~94.
4. 青野孝昭・小野野洋 (1976) 福山山系の甲虫. 倉敷の自然: 102~116.
5. 文化庁 (1970) 植生図・主要動植物地図・33岡山県.
6. 環境庁 (1979) 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類) 岡山県.
7. 桂孝次郎外 (1973) 蒜山(岡山県)の昆虫類. 蒜山の生物調査報告: 109~173.
8. 倉敷昆虫館 (1978) 岡山県の昆虫(改訂版).
9. 岡山県環境部自然保護課 (1977) 岡山県の昆虫.
10. ——— (1980) 自然保護基礎調査報告書自然保護地域候補地調査結果.
11. 岡山県環境保健部自然保護課 (1981) おかやまの自然.
12. ——— (1982) 自然保護基礎調査報告書自然保護地域候補地調査結果.
13. パシフィック航業株式会社 (1981) 久々井地点の昆虫.

(文責 青野孝昭)

# 岡山県のスズムシ現況調査報告

倉敷昆虫同好会

(担当者 近藤光宏)

## 1.はじめに

本会発足30周年を迎えるにあたり、記念事業の一つとして鳴く虫を代表するスズムシ・マツムシについて、昭和55・56の両年にわたり、会員はもとより広く一般の方々のご協力を得て調査を進めてまいりましたところ、多数の方々から資料をいただくことができたので、ここに筆者が担当したスズムシについて、ご報告申し上げる。

なお、貴重な資料を提供していただいた方は、次の諸氏である。本文に入るに先だち、お名前を明記して、お礼の一端といたしたい。

(順不同敬称略)

岡澄雄、駒井艶子、久保八重子、湯浅久子、竹内幸夫、野口静枝、鈴木久美子、佐藤のりお、吉田嘉男、三宅弘明、佐用栄治、藤原昌子、河村幸恵、原田信子。

## 2.調査期間

昭和55・56年。ただし、それ以前のデータも引用してある。

## 3.調査方法

主として鳴き声による。

## 4.調査内容 (目録(1)・(2)の調査項目について)

a. 分布地…小字まで表現することを原則とする。

b. 発生量…①5頭以内。

②5頭以上だが何とか数えられる程度。

③数えるのが困難なぐらい多数。

の3段階に分ける。

c. 発生期…鳴き声を確認した年月日と時刻。

詳しくは、本会の連絡誌「臥牛」No. 22 P 2~3」を参照していただきたい。

### 目録(1) 昭和55年(調査期間)のデータ

分 布 地	協 力 者	発 生 量	発 生 期	時 刻
岡 山 市 山 田	岡 澄 雄	1	Aug. 10, 1980	
タ タ	タ	1	Aug. 28, 1980	

分 布 地	協 力 者	発生量	発 生 期	時 刻
岡山市一宮町尾上大字北浦	駒井 鮎子	1	Aug. 24, 1980	20:30
夕 西 祖	久保八重子		Sep. 4, 1980	
夕 今 在 家	湯浅 久子	3	Sep. 5, 1980	18:00
夕 久 々 井	近藤 光宏	3	Sep. 23, 1980	19:00
夕 正 儀	夕		夕	19:10
夕 片 岡	夕		夕	19:20
夕 辛 香 峠	竹内 幸夫			
夕 玉 柏	夕			
倉 敷 市 児 島 唐 琴	野口 静枝	2	Aug. 18, 1980	18:00~ 日出前
夕 玉島柏台	鈴木久美子	3	Aug. 上旬, 1980	
夕 向 山	近藤 光宏	1	Oct. 10, 1980	6:30
夕 玉 島 富	夕	2	Oct. 16, 1980	18:00
夕 玉 島 道 口	夕	2	Oct. 16, 1980	18:00
玉 野 市 宇 野	佐藤のりお		Sep. 3, 1980	
夕 番 田	吉田 嘉男	3	Aug.~ Sep. 1980	
笠 岡 市 大 島 正 頭	近藤 光宏	1	Sep. 5, 1980	17:00
浅 口 郡 鴨 方 町 六 条 院 中 北 平	三宅 弘明	3	Aug. 15, 1980	
邑 久 郡 牛 窓 町 鹿 忍	佐用 栄治	3	Sep. 2, 1980	16:30
夕 長 船 町 福 岡	藤原 昌子	3	Aug. 下旬, 1980	
和 気 郡 日 生 町 日 生	河村 幸恵	2	Aug. 24, 1980	夜~朝8:00
赤 磐 郡 山 陽 町	竹内 幸夫			
夕 赤 坂 町	夕			
夕 吉 井 町	夕			
久 米 郡 久 米 町 坪 井 上	夕			
夕 夕 下	夕			(採集)
夕 夕 中 北 上	夕			
夕 夕 中 北 下	夕			
夕 夕 棚 原 田	夕			
夕 夕 藤 原	夕			
津 山 市 院 庄	夕			
山 林 田	夕			(採集)
苦 田 郡 鏡 野 町 大 町	夕			
夕 夕 真 径	夕			
夕 夕 百 谷	夕			(採集)
夕 夕 百 虬	夕			
夕 夕 竹 田	夕			
夕 加 茂 町 公 郷	夕			

## 目録(2) 昭和54年以前のデータ

分 布 地	協 力 者	発生量	発 生 期	時 刻
倉敷市玉島沙美	原田信子	3	Sep. 19, 1975	
タ 向 山	近藤光宏	1	Oct. 7, 1975	5:30
タ タ	タ	3	Oct. 10, 1975	6:00
タ タ	タ		Oct. 26, 1975	6:30
タ 浅 原	タ	1	Sep. 5, 1976	17:00
タ 向 山	タ	1	Sep. 15, 1976	6:00
タ 稚 田	タ	3	Sep. 4, 1977	18:00
タ 御 前 道	タ	3	Sep. 4, 1977	
タ 児 島 大 島	タ	3	Sep. 10, 1978	17:10
タ 児 島 神 道 山	タ	1	Sep. 10, 1978	17:50
タ 児 島 小 原 池	タ	1	Sep. 10, 1978	18:34
タ 児 島 鴻 ノ 池	タ	3	Sep. 14, 1979	18:40
タ 児 島 神 道 山	タ	3	Sep. 14, 1979	19:00
タ 種 松 山 七 つ 池	タ	1	Sep. 14, 1979	21:30
タ タ	タ	1	Oct. 1, 1979	15:50
都 雄 郡 黒 田	タ	1	Aug. 31, 1976	18:00
タ 水 別	タ	1	Sep. 18, 1976	18:00
タ 古 地	タ	1	Aug. 23, 1976	
浅 口 郡 遥 照 山	タ	1	Aug. 28, 1977	
小 田 郡 猿 掛	タ	1	Sep. 15, 1978	16:30
和 気 郡 日 生	タ	1	Aug. 31, 1975	
総 社 市 高 梁 川 東 堤	タ	1	Aug. 19, 1975	
タ タ	タ	1	Aug. 23, 1976	
タ 種 井	タ	1	Aug. 23, 1976	
高 梁 市 川 面	タ	3	Sep. 6, 1975	0:30
新 見 市 井 倉	タ	3	Sep. 6, 1975	0:00
英 田 郡 英 田 真 木 山	タ	1	Sep. 17, 1978	15:30

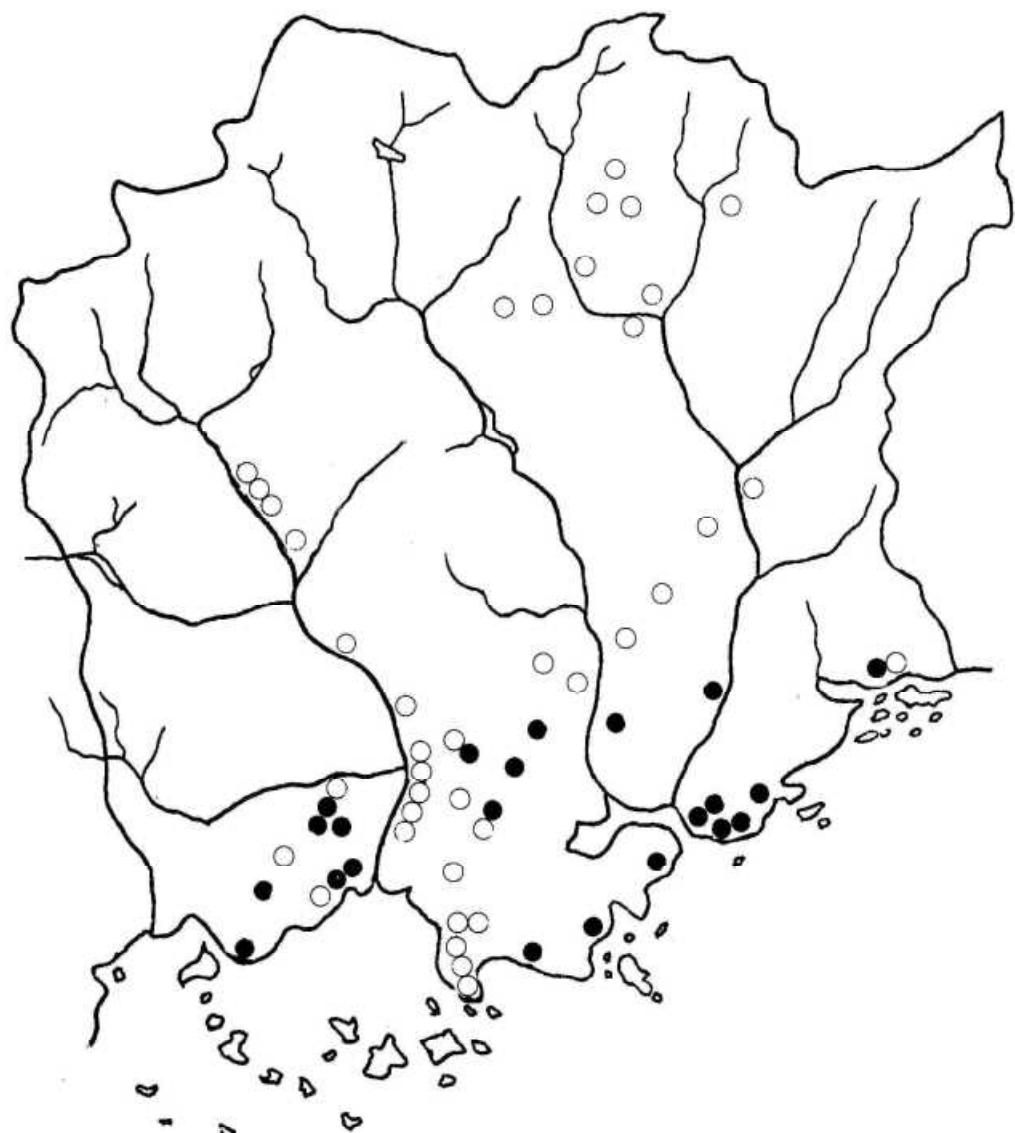
## 5. 調査結果および考察

調査期間中に寄せられたデータは、目録(1)に示されているように14名で、延べ39件である。このうち件数の多いものから郡市別に見ていくと。

岡山市(10), 久米郡(6), 苦田郡(6), 倉敷市(5), 赤磐郡(3), 津山市(2), 邑久郡(2), 玉野市(2), 笠岡市(1), 浅口郡(1), 和気郡(1)の順となっている。

また調査期間以前のデータは、目録(2)に示されているように原田信子氏のものが1件あるほかは、筆者のもので延べ26件である。件数の多いものから。

第一図 岡山県下のスズムシの分布



●……昭和55年のデータのうち記録年月日の確かなもの

○……昭和54年以前のデータおよび昭和55年のデータの  
うち記録年月日の不明なもの

倉敷市（16）、都窪郡（3）、総社市（3）、浅口郡（1）、小田郡（1）、和気郡（1）、高梁市（1）、新見市（1）、英田郡（1）の順となっている。

次に目録(1)(2)を基にして分布図を作成したものが第1図（岡山県のスズムシの分布）である。

第1図でスズムシの県下の分布状態をながめると、確認された地点の多くは、県南部に集中している。また三大河川の水系別では、高梁川水系のデータが最も多く、旭川水系では非常に少ない。特に県中部の金川から北へ真庭郡の落合、勝山、湯原、さらに蒜山へかけてのデータは皆無であることなどがわかる。

ちなみに、データの全く上がってこなかった都市名をかかげると、阿哲、真庭、勝田、後月、川上、上房、井原の計七つの各都市である。これを水系別にみると、高梁川水系では、小田川上流域、成羽川流域、新見市街地から北の各水系などである。旭川水系では、先に述べたように宇甘川流域、旭川ダム周辺、勝山から北の各支流域などである。また吉井川水系では、八塔寺川、東西粟倉村の各支流域などとなっており、今後の調査がまたれる。

一方、県下の北限は、吉井川水系の苫田郡百畠あるいは公郷あたりとなっており、この点は、筆者等の予想に反してかなり北の方まで分布していたことになる。

## 6. おわりに

皆様のご協力により、岡山県下のスズムシは、県南部から中部にかけて広く分布していることがわかり、さらに竹内幸夫氏から寄せられたデータにより、これまで確かな記録のなかった県北部の分布状況がかなり明白にされてきた。しかし、未調査の地域も多く、なお七つの都市におよぶことがわかった。

目録(1)をみてお気づきのように、お寄せいただいたデータの中には、不備のものも多い。これは調査方法の不徹底によるものと思われた。

なお、調査の過程で、神戸大学農学部昆虫学研究室教授、奥谷禎一先生から、この種の調査を実施する場合の種の選定について一言ご助言をいただいた。すなわち、種の選定にあたっては、マツムシ・スズムシなどのような普遍的な種よりも、例えば、クツワムシのように環境指標性の高い種をとり上げて調査した方が、時代のニーズに応えることになりよい結果が得られるのではないかとのご指摘をいただいた。参考までに付記しておきたい。

最後に、本会の調査にご賛同の上、こころよく資料を提供された方々に厚くお礼を申し上げて、稿を閉じたい。

## 創立30周年記念講演について

昨年（昭和56年）は本会創立30周年にあたり、これを記念して11月8日（日）に秋期例会が重井病院において、会員多数の参加のもとに盛大に開催されました。特に、記念事業として、チョウの研究では我が国の第1人者であり、本会でも創立当初より御指導いただいている九州大学名誉教授白水隆先生をお招きして、記念講演やさらに懇親会等多彩な催しが行われました。なかでも「チョウからみた日本列島の昆虫相の成り立ち」と題する白水先生の講演は、多くのスライドを用いて、昆虫の分布を考える上での基礎知識や研究方法、日本産チョウ類の分布パターンなどをわかり易く説明されたもので、非常に興味深い、有意義なお話しでした。岡山県の昆虫相の解明をめざす私たち同好者にとって、大変参考になるものですので、すずむし誌上に簡単に紹介しておきます。

### 「チョウからみた日本列島の昆虫相の成り立ち」

九州大学名誉教授 白 水 隆（講演概要）

#### 1. 生物地理の材料としての昆虫

生物地理を研究する材料として昆虫のよい点は、まず、大型動物に比べて非常に狭い habitat で生活できるため、生き残っているものが多いことです。その顕著な例として、対馬には、ツシマウラボシシジミのような熱帯的な昆虫がかなり残っていますが、他の大型動物ではこういう例はほとんどありません。

次は、昆虫は種類が多いということです。これも、対馬を例にとると、哺乳類が、8種、両生類とは虫類合わせて10種足らずですが昆虫は3千種近くもあり、種類数は2ケタほども違います。このため、大型動物に比べて昆虫により得られた結論は偏りが少なくてすむということです。

一方、昆虫の欠点の悪い点は、化石による証明がますます不可能なことと、非常に移動能力が大きいため、人間の移動につれて動くことがあるなどです。

したがって、昆虫を材料とする場合は、他の動植物で調べられた状況をよく把握したうえで、現在の分布だけに惑わされずに公正な判断を行う必要があります。

また、昆虫には高等動物には見られない九州西回り型分布、あるいは黒潮型分布など植物の分布と似た分布型を示すものがあり、昆虫の分布を考えるうえで植物の分布についてのいろんな理論や考え方をもつ必要があると思います。

#### 2. 西部支那系を考えたいきさつ

私が大学を出た頃、生物地理の主な課題は、区系地理学において、日本は旧北区と東洋

区にまたがっているがその境界をどこに引くかということと、もう一つは分布境界線の問題でした。まず、区系地理学の問題は、旧北区と東洋区という区分があっても昆虫は、それにはお構いなしに移動するので本当は線が引けるはずがありません。また、境界を決める時に個々の種がどちらに含まれるのか決めなければならぬのですが、その決め方自体、十分な検討がなされていませんでした。

次に、分布境界線というのはその線のところで生物相が大きく違うということで引かれたもので、プラキストン線、八田線、三宅線などいろんな名前がつけられており、それぞれ意味はあるのですが、対象とする生物が違っておれば線をいくら引いても違うのは当たり前で、本当の生物相の研究にはあまり役に立ちません。

そこで、生物の発祥地というものを考えて、そこからどのようにして現在のような分布になったかを考えないと本当のことはわからないのではないかということで、西部支那系ということを言い出したのです。

西部支那系というのは、ヒマラヤ、ビルマ、ブータン、西部支那を通じて台湾、日本というような地域に分布している昆虫のことで、これらが日本の昆虫相の根幹をなしており、それ以外のものは後からの付け足しであると考えた訳です。

#### 4. 西部支那系の本質

西部支那系というヒマラヤから日本にわたって広がるような非常に顕著な生物の分布型がなぜ見られるのかということですが、まず、グレイというアメリカの植物学者は日本とアメリカ東岸の植物が非常によく似ていることから、かつて北極周辺に同じような植物があったに違いないと考えて、これらの植物を第3紀周北極植物群と名付けましたが、その後化石により、北の方に温帯やさらに熱帯の植物があったことが証明されています。すなわち、氷河時代に入る前の第3紀の北極周辺には、ちょうど現在、日本にあるような植物があった訳で、昆虫の場合も具体的な例はないのですが大体植物と同じ分布であったと考えられます。これらの動植物は、次の氷河時代に入るとどんどん南へ下がっていきます。そして、いく度かの氷期を経た後、周北極性要素の生き残りを主体としてそれから分化したもののが、現在、西部支那系要素といわれる生物の中心をなすものです。

一方、より暖かいところには東洋系の生物が棲んでいたわけですが、氷河時代に気温が低下するにつれて、温帯的な気候に適応して進化したものがあり、アサギマダラ、クロアゲハ、クロヒカゲ、ムラサキシジミなどの種は熱帯系でありながら、同じような分布をしており、西部支那系の一部は熱帯系のものが温帯的な気候に適応したものだといえます。

ゼフィルスもその8割以上の種は、ヒマラヤから台湾・日本にかけて分布しており、その起源は周北極要素であろうと思われます。

#### 5. 九州における草原性チョウ類の由来

ヒメシロチョウ、オオルリシジミ、ゴマシジミ、ハヤシミドリシジミなどのチョウは、九州では中部の阿蘇・九重地域の草原にしかいません。全国的にみると、四国にはいませんが、中国地方に若干おり、本州中部地方にはかなり濃密に分布しています。どうしてこ

のような分布をしているのかということを、調べてみると、九州の草原には、フジアザミ、マツムシソウなどを含むA型草原とこれらを含まないB型草原があり、前述の草原性チョウ類の分布は、すべてA型草原の中に入ってしまうことがわかりました。

これらのチョウが九州に入ってきたのは恐らく氷期の草原拡大期で、九州の広い範囲に分布していたものと思われます。しかし、その後の森林の回復に伴って草原は減少し、阿蘇・九重の非常に新しい火山地域に残る草原にだけ生き残ったものと考えられる訳です。

## 6. 日本におけるチョウ類分布パターンとその由来

（ここでは日本に産するチョウを30の分布型に、類型的に分けて、その由来等について）  
（資料（分布図）により説明された。）

## 7. 近年における日本のチョウの分布の変動

チョウを研究している専門家にとって一番ありがたいのは全国の同好会誌に発表される分布と生態の報告です。ここでは、日本昆虫学会において同好会の方々の学界への貢献についてということで行った分布の変動についての報告を紹介します。

日本本土における顕著な例として、ナガサキアゲハがあります。私たちが学生時代には九州以外にはいませんでしたが、1930年代には徳山、防府、下関などで報告がはじめ、1950年頃には、広島、呉あたりでも極めて普通に見られるようになりました。また、去年までの状況をみると、岡山、鳥取でも1978年頃から増えはじめたようで、去年は神戸でもたくさん見られるようになりました。今年はさらに京都でも探れています。こうした、分布拡大の原因として、最近ミカンが暴落して放置されたミカン園が増えたからとかあるいは1978年、79年の暖冬の影響ではないかなどという報告がでています。

次にクロコノマチョウですが、静岡県では1955年から1960年にかけて急激に分布を拡大し個体数も増えましたが、1965年以降減少し、1979年頃から再び増えはじめたなど分布の変動が克明にとらえられています。また、長野県や山梨県でも河川の流域に沿って分布を拡大したことが報告されています。

一方、沖縄は採集者が多く入っており、年毎の蝶相の変動がかなり詳しくわかっています。

クロボシセセリをはじめウラベニヒヨウモン、ナミエシロ、ベニモンアゲハ、テツイロビロードセセリ、キゴマダラ、バナナセセリなど近年多くの種が沖縄へ土着、あるいは分布を拡大しています。しかし、東洋熱帯にいるこれらの種が、何故最近になっていくつも土着するようになったのかはよく判っていませんが、要は同好者の皆さんの調査によって分布の変動が明らかになったということです。

## 8. 日本特産のチョウの由来

日本特産のチョウは、現在、ギフチョウ、アサマイチモンジ、サトキマダラヒカゲ、沖縄産 *Ypthima* 3種（リュウキュウウラナミジャノメ、ヤエヤマウラナミジャノメ、マサキウラナミジャノメ）ウラキンシジミ、フジミドリシジミ、エゾミドリシジミ、ベニモンカ

ラスシジミ、コチャバネセセリ、アサヒナキマダラセセリの計12種います。このうち、アサマイチモンジ、コチャバネセセリ、アサヒナキマダラセセリの3種は極めて近縁な種が国外におり、同一種の亜種か代置種である可能性が強いと思われます。

こうした日本特産種がどうして（どのようにして）できたのかということを考えてみると、特産種には、その島で新たに分化したものと広く分布していたものが衰退してその島に遺ったものとがありますが、分類的に近縁なものがいないウラキンシジミ、フジミドリシジミ、ベニモンカラスシジミは恐らく遺存種であり、アサマイチモンジ、*Ypthima* 3種、コチャバネセセリ、アサヒナキマダラセセリなどは隔離されて亜種的な、さらに種的な特化をおこしたものと思われます。

次に、サトキマダラヒカゲは、日本に前からいた種から新しく分化してきた種であると考えられます。日本産キマダラヒカゲ属は2種いて、日本特産のサトキマダラヒカゲは大体、低地におり、朝鮮、中国にも分布するヤマキマダラヒカゲはやや高地にいます。こうした例は他にもありますが、現在、高地にいる種（ヤマ）は氷河時代には低地に広く分布していたが、温暖になるにつれて高地へ上がり、低地の空いた場所へ適応したものが元の種から分化して新しい種（サト）になったものと思われます。

日本特産種は大体以上のような経過をたどってできたものと考える次第です。

(文責 中村具見)

## 鳥取県西部のキリシマミドリ一産地

中 村 具 見

キリシマミドリシジミ *Chrysozephyrus ataxus Kirishimaensis* OKAJIMA は、中国地方では山陰側に局地的な産地が知られるだけの稀種であり、県下からは未だ報告がないが、鳥取県では低山地の暖帯常緑樹林帶上部において少ないながら発見されている。特に、伯耆大山周辺では東北側山麓を中心に点々と記録されており、さらに地元同好者の方々により調査が進められているものと思うが、筆者も、次のとおり、わずかではあるが本種を採集しているので、参考までに報告しておく。

鳥取県東伯郡関金町米富（標高350m）2卵（アカガシ頂芽より）Apr. 28, 1980

採集した場所は、集落に近いやや急な東南向き斜面の二次林で、アカガシはあまり多くない。

本種は、普通、樹林内のアカガシ低木の休眠芽に産卵することが多いが、ここでは低木からは全く得ることができず、高木（樹高5m程度）の頂芽からわずかに2卵を採集できたのみであり、調査したのは極めて狭い範囲ではあるが、この付近における本種の個体密度は非常に低いものと思われる。

なお、この卵は、5月12日から13日にかけて孵化し、6月20日に1♀1♂が羽化した。

## 創立30周年記念

## 台湾採集旅行の報告

## I 旅行記

浅野憲一\*

倉敷昆虫同好会創立30周年の記念行事の1つとして企画された台湾採集旅行の一員として、今回参加させていただいた。旅行記の依頼があるとは夢にも思わず、メモも取らずに漫然と楽しんで来たため、いざ投稿となると、薄れゆく記憶と文章ベタも手伝い小生にとっては大変なストレスとなった。尻に火がつきあわてて書き始めた次第で、同行各位の意を十分に書き尽し得ないと思うが御容赦願いたい。後日、台湾への採集を予定しておられる同好の志への参考となれば幸いである。なお、採集品は別に発表されると言うことなので、本文中では省略した。

7月21日（火）午後、大阪国際空港から、今春開設されたばかりの直行便にて高雄に向う。一行は、宇野、青野、風早のペテラン諸先輩に、及川、渡辺、吉原の諸氏、三河内女史と息子さんの岳、明の両君、及び小生の総勢10名である。機内では早くも三角紙を折りながら台湾での期待をいやが上にも高める海外採集の常連、風早氏。手持ちの三角紙で足りるかどうか不安がよぎる。結構腹一杯になる機内食を平らげ、ふと窓から下界を見下ろせば、既に台湾上空に差掛っているというのに一面の雲海である。案の定、19時30分、雨上がりの高雄国際空港への着陸となった。旅行社のマイクロバスの出迎えを受け、宿舎である漢王大酒店に到着、天候の回復を願いつつ本日終了？

7月22日（水）ぐずつき気味の天候ではあるが、どうにか雨は上がっている。朝食の時、宇野氏が昨夜町で買ってきたというマンゴー、竜眼等南国特有の香りのする果物を賞味し、気を良くする。9時過ぎ、先輩諸氏の知人で高雄市内で花店を営む邱春炎氏と、彼が準備してくれた我々がやっと乗れるマイクロバスで、今回の主目的地、高雄県六龜に向う。約70km2時間の行程である。

車窓からは時折陽光も差込み、舞う蝶の姿に一喜一憂する。今回の旅行は我々蝶屋のために行程を組んでもらったようなもので、御期待に副わなければ……。途中、熟したバナナを沿道で買って食べたり、めずらしい風物を眺めながら、昼前に六龜に到着した。

六龜は大きな川沿いに開かれた温泉地とのこと、付近には蝶の集団越冬する谷もあるという。旅社に荷物を預け、現地で標本商を営んでいる陳文龍氏の案内でタクシー2台に分乗、車で15分程の対岸の山麓で採集することになった。そこは山に深く切れ込んだ渓谷を

〔すずむし、第118号、25~40頁、1982年10月〕

\*岡山県吉備郡真備町上二万1212-1

持ち、山中へと向う4～5kmの道路沿いにマンゴー畑と民家が点在する山村で、アゲハチョウ、シロチョウの類が多く飛んでいる。準備ももどかしく採集に散って行く。マンゴー畑の中はリュウキュウムラサキが多く見られる。民家の鶏小屋の糞に止まっていたフタオチョウを取り逃す。残念！

後から聞いた話では現地の人が仕かけたトラップで、おとりの蝶も含め多数採集した人がいたとか。いずれこのトラップも濁流に押し流される運命にあったのだが……。

約2時間ほど採集したであろうか、にわかに雲行きがおかしくなり、ついに大粒の雨が落ちてきた。民家の軒先、橋の下にと雨宿り、天候の回復を待つことにする。しかし、我々の期待とは裏腹に、ついには雷までも鳴り始め、やむなく六亀の町へと引き上げることになった。どしゃ降りの雨の中、タクシーに飛び乗ったまでは良かったが、帽子を忘れたのに気付き、続いて採集品がそっくり入った牛皮の三角ケースが腰にないのに気付く。すぐ引き返したが時既に遅く、現地の採集人にプレゼントした事になってしまっていた。10元で農家の人が買ったコノハチョウと共に。

六亀に帰り陳さんの案内で近くの飯店に行き、夕食をとることになった。土間にテーブルを置いただけの質素なところで、ビール、紹興酒を飲みながら、キョンという野犬にいた野生動物の肉いため等、出るもの全てめずらしくきれいに平らげる。結構一同満足したようであった。食後、陳さんの店に足を運ぶ。蝶、甲虫等我々が欲するほとんどの標本がここにはあった。ただし、相当値が良く、たちまち貧乏人になることを覚悟しなければならないが……。

雨はなおも降り続き、早々と旅社に引き揚げる。渡辺氏はさっそく展翅をしている。三角ケースをなくした小生は、まだれをたらして見ているだけだった。この旅社、六亀では一番大きな看板を掲げ立派に見えたが、水洗トイレの水は流れず、宿の女将に聞けば洗面器で水を運べと言う。風呂はあるが栓がなく何かで代用せよという。風呂の栓を抜けば部屋の床一面水びたしとなる。宿賃260元（日本円約1800円）、特に状態の悪かった部屋はさらに半額になったと聞いた。

7月23日（木）雨音を気にしながらの早朝の目覚めであった。もし雨がやんでいれば、近くにコノマチョウを追っかけに行く予定だったが、外が明るくなても雨はやむ気配はない。諦めてもう一眠りする。皆残念そうな顔をして起き出して来る。昨夜の店で朝食をとり、陳さんの店に行く。雨はなおも降り続きどうにもならず、陳さんの店で思い思いに採集を始めた。フトオアゲハ、タカサゴミドリ、ヨナクニサンの蛹、キシタアゲハ等々、中には小生の如くアゲハ類何種とかオーダーする不届なやからもいたが、陳さんも気軽に応じてくれ、雨降って陳さん儲かるの諺有り。

天候の回復も望めず、予定を早め高雄に引き返すことになり、TELにて高雄へマイクロバスの要請をする。近くで簡単な昼食を食べ終った頃、バスが到着する。この頃になると六亀のメインストリートは濁流の川と化している。這々の体で六亀を後にしたが、道路はいたる所で濁流に洗われ、ところによってはタイヤ半分以上も水につかる。車窓から眺めると現地の人は家族総出で道路で魚とりをしている。下淡水系も大河となり、その濁流はすさまじいものがある。

命からがらやっと高雄にたどり着く、寿山公園に車を休め、小雨けむる高雄港を見下ろす。ここでセセリチョウ類等の若干の採集品があったようである。漢王大飯店に立寄り荷物をおろし、邱さんの案内で豪華な広東料理を賞味、一同腹一杯で今日のくやしさも忘れ満足感にひたる。

7月24日（金）予定では墾丁公園まで足を延ばし、熱帯植物園を見て帰ることになっていたが、六亜の挽回を図るため、近くの山中で適当な所を物色し、邱さんの勧めもあり、屏東県三地門へ車を進めることになった。どうにか雨も上がり、回復のきざしが見えてくる。三地門は高雄の東に位置し、車で約1時間の行程である。途中ちらほらと蝶の姿も目につくようになる。三地門の町並を抜け、橋を渡り、対岸の山に登る。車進入禁止地点まで乗り入れると、そこは小公園程度に整備されており、絶好の蝶採集地のように思える。はやる心を抑え一同記念写真に納まる。集合時間まで思い思いに散る。約2時間30分の間、ヘトヘトになるまで走り廻り、蝶屋には結構手応えがあった。

町まで車で降り昼食とする。午後からは町側の山麓で採集することになった。ちょっと山に登ると山地民族保護区となり進入禁止、警務処に許可を求めたが失敗、やむなく町外れで約1時間30分の採集を行うことになった。ここでは普通種の蝶がほとんどであったが、かなりの種類を採集できた。この近辺には日本人観光客も訪れる事がないようで、日本人を見るのは20数年振りと、戦時中日本教育を受けた老人に懐しがられたそうである。

高雄への帰路、一息に飲んだ500ccの冷いマンゴージュースの味は又格別であった。ホテルに預けた荷物を受けとり台北へ向うため高雄国際空港へ急ぐ。大変お世話になった邱さんに別れを告げ、17時50分発の中華航空278便にて台北へ飛ぶ。

約40分で台北の松山空港に到着、旅行会社の台北支店員の出迎えを受ける。ここで風早氏が知人を尋ね別行動をとり、台湾を離れる時空港で落合うことになった。成果を期待したい。先日の大雨は何十年振りとかで、被害も相等あったと聞き納得する。我々は慶泰大飯店に落ち付く。ここで三河内女史と岳、明の両君も知人の出迎えをうけ、別行動となる。両君とも、我々大人の中で良く頑張ったと思う。未たのもしい限りである。熱っぽい明君の容態が心配である。彼らは29日頃まで滞在し、各地で採集を予定している様である。旅の無事と健闘を祈り別れを告げる。

7月25日（土）天気上々、青野、及川、吉原、渡辺の各氏と小生等は、バスで烏来へ向かい、宇野氏は故宮博物館等の見物をされ、我々と入れ代りに夜間採集のため烏来に行くことになった。

新公園近くのバス停から烏来行き直行便が出ている。烏来まで片道約27kmの行程ながら、バス賃は21元と非常に割安である。女性車掌の笛の合図で複数車線からバス停へと器用に出入りを繰り返す。日本と違い車優先であるが、人車入り乱れる中を神風タクシーならぬ神風バスとなり疾走する。おかげで烏来につくまで前席を抱きかかえ、生きた心地がしなかった。

烏来は山紫水明の幽邃境で、白糸の滝までの台車（トロッコ）乗りと、文化村歌舞場で繰り広げられる高砂族の歌と踊りで有名な観光地である。原色の衣裳を着飾った美人と写真に納まるのも結構であるが、鼻の下を伸ばし過ぎて大金を請求されないように！

流暢な日本語の土産物屋の主人に迎えられ朝食をとり、台車軌道の下の川沿いの道を滝まで歩きながら昼過ぎまで採集する。これといったポイントもなく、花もハイビスカスとウツギの類いが咲いている程度で訪花する蝶も少ない様である。昼食後、ハイビスカスに訪れるツマベニチョウを追いかけたが、同行の渡辺氏に先を越されるばかりで成果は思わない。その内蝶道を見つけて待期作戦に切り替え、結構戦果を得る。土産物屋の姉さんに蝶の標本を売りつけられることもなく、80%の満足感とヘトヘトになった足を引きずり、再び恐怖大衆公用車？で無事台北市に帰り着く。ホテルで夕食。宇野氏が鳥来へ向かう。我々の世話を追われ、今日まで満足な採集品も多分得られなかつたと思われる宇野氏の大成果を祈りつつ見送る。

7月26日（日）今日は出発時間の10時半までホテルでのんびりと過ごすことにする。ところが、早朝タクシーで郊外の陽明山まで採集に行き、多大な成果を納めた人がいたのである。及川氏である。昨夜同行を誘われた時に名乗りを上げていれば良かったと、渡辺氏と共に悔しがるが後の祭である。早起きは三文の得の諺有り。

桃園国際空港で風早氏と合流、聞けば採集の方は思わしくなく、現地の祭が大変楽しかったとのことであった。

僅か6日間の旅であったが各自それぞれの思い出を抱いて、14時35分発の日本アジア航空212便にて台北を後にした。

### 後記

時期的には決して恵まれてはいなかったが、我々蝶屋は結構採集を楽しめたと思う。反面甲虫類は姿を見ることすら稀であり、青野、吉原両氏には非常に気の毒であった。しかし旅は快適であり、言葉、食物等もそれほど不自由ではなく、都会の宿舎も満足であった。機会あれば再度訪れたいと思う。

最後になったが、多忙にもかかわらず日程の調整、旅券の手配にと奔走され、現地に着いてからも案内役と大変なお世話をして戴いた宇野先生に紙面を借りて心より感謝申し上げる。

## II 蝶類報告

渡辺和夫\*\*

1981年7月、倉敷昆虫同好会創立30周年を記念し、同好会としては初の海外遠征として、台湾への採集旅行が企画実現された。採集旅行の内容については先に浅野憲一氏が紹介しているので、ここでは採集された蝶類についてデータをまとめてみたい。報告の形式は次の通りである。

1. 同好会有志による採集旅行であることに鑑み、全体として記録された種を基本に構成している。なお、学名は省略し全て和名のみ記載した。
2. 蝶類採集への参加者は次の通りである。（あいうえお順、敬称略）。

---

\*\*岡山県総社市三輪203

青野孝昭、浅野憲一、及川正博、風早保男、三河内房子、三河内岳、三河内明、渡辺和夫。

なお、本文中においては採集者名は名字だけを使用し、三河内親子も三人で“三河内”とした。

### 3. 採集地及び各人の日程は次の通りである。

- 7月22日 高雄県六亀（全員）
- 7月23日 高雄県高雄市寿山（全員で行くが雨中のため採集者は数人）
- 7月24日 屏東県三地門（全員）
- 7月25日 台北県烏来（青野、浅野、及川、渡辺）  
桃園県大溪（風早）  
台北市（三河内）
- 7月26日 台北県烏来（三河内）  
台北市陽明山（及川）
- 7月27日 花蓮県太魯閣（三河内）
- 7月28日 台北市（三河内）

なお、本文中においては採集地はそれぞれ六亀、寿山、烏来、大溪、台北、陽明山、太魯閣としている。

4. 同定は全て「原色台湾蝶類大図鑑」（白水隆：1960）を基準にしている。ただし、同書では異種とされている“ムモンウスキチョウ”と“ギンモンウスキチョウ”を同種として扱い“ウスキシロチョウ”として報告している。また、1981年12月19日に倉敷昆虫館において参加者総意のもとに同定しているが、*Eurema* 属については、なお不安を残すので同好会幹事の中村具見氏に協力を求め、氏の意見を拝聴した。

5. ここに示したデータは全て標本の現存するものばかりで、そのほとんどについて展翅標本となっていることを付記しておく。

## 記録報告

### アゲハチョウ科

#### 1. ベニモンアゲハ

六亀 22. VII. '81 及川 2 ♀, 三河内 1 ♂, 渡辺 1 ♀

六亀の標本商、陳文龍氏の店の対面にウマノスズクサの一種があり、その回りを飛んでいた。

#### 2. アオスジアゲハ

六亀 22. VII. '81 青野 1 ex., 及川 1 ♀, 三河内 4 exs.

三地門 24. VII. '81 青野 1 ex., 浅野 3 ♀, 風早 2 ♀ 1 ♂, 渡辺 1 ♀

烏来 25. VII. '81 及川 1 ♀, 渡辺 1 ♀

#### 3. タイワンタイマイ

三地門 24. VII. '81 浅野 1 ♀

#### 4. ミカドアゲハ

六亀 22. VII. '81 及川1♂, 三河内6exs.

鳥来 25. VII. '81 浅野1♀, 渡辺1♂

5. コモンタイマイ

三地門 24. VII. '81 浅野1♂

南部にのみ産する種で、目撃回数はかなりあったものの飛翔速度が速く、ネットしたのは浅野氏1人だった。

6. オナシアゲハ

台北 25. VII. '81 三河内1ex.

7. オナシモンキアゲハ

六亀 22. VII. '81 及川2♂, 三河内9♂1♀, 渡辺1♂

三地門 24. VII. '81 浅野2♂

鳥来 25. VII. '81 青野1ex., 及川1♂, 渡辺1♂

8. シロオビアゲハ

六亀 22. VII. '81 及川1♂

三地門 24. VII. '81 青野1ex., 及川1♂, 渡辺1♂

鳥来 25. VII. '81 浅野2♂, 及川1♂

太魯閣 27. VII. '81 三河内4♂

9. モンキアゲハ

太魯閣 27. VII. '81 三河内1♂

10. クロアゲハ (無尾型)

六亀 22. VII. '81 青野1ex., 三河内4♂

鳥来 25. VII. '81 浅野1♂, 及川1♀, 渡辺1♂

11. ナガサキアゲハ

六亀 22. VII. '81 三河内1♀ (無尾)

三地門 24. VII. '81 青野1♂, 浅野1♂, 三河内5♂

鳥来 25. VII. '81 青野1♂, 浅野3♂1♀ (無尾) 1♀ (有尾), 及川2♂, 渡辺1♂1♀ (無尾) 2♀ (有尾)

陽明山 26. VII. '81 及川1♀ (有尾)

♂は常に無尾であるが、♀は無尾及び有尾の2型がある。個人的な見解だが無尾の方がナガサキらしいと思う。

12. カラスアゲハ

六亀 22. VII. '81 及川2♂, 渡辺1♀

三地門 24. VII. '81 風早1♂, 三河内3♂

鳥来 25. VII. '81 青野1ex.

13. ルリモンアゲハ

太魯閣 27. VII. '81 三河内1♂

14. エサキキチョウ  
 三地門 24. VII. '81 風早1♂, 渡辺1♀  
 太魯閣 27. VII. '81 三河内1♂
15. キチヨウ  
 三地門 24. VII. '81 及川1♀, 風早1♀, 三河内1♀, 渡辺1♂  
 烏来 25. VII. '81 浅野1♂, 渡辺1♂  
 太魯閣 27. VII. '81 三河内2♂
16. タイワンキチョウ  
 六龜 22. VII. '81 三河内1♀  
 三地門 24. VII. '81 青野1ex., 風早2♂2♀, 渡辺1♂  
 烏来 25. VII. '81 及川1♂1♀  
 大溪 25. VII. '81 風早2♂
17. メスシロキチョウ  
 三地門 24. VII. '81 三河内1♂
18. ウスキシロチョウ  
 六龜 22. VII. '81 及川3♂, 風早1♂1♀, 三河内3♂4♀, 渡辺1♀  
 三地門 24. VII. '81 青野1ex., 及川2♂1♀, 風早1♂2♀, 渡辺2♂1♀  
 烏来 25. VII. '81 浅野2♂2♀
19. ウラナミシロチョウ  
 三地門 24. VII. '81 及川1♀, 三河内1♂1♀, 渡辺2♂
20. マダラシロチョウ  
 六龜 22. VII. '81 及川1♂  
 太魯閣 27. VII. '81 三河内1♂
21. ツマベニチョウ  
 六龜 22. VII. '81 三河内1♂  
 三地門 24. VII. '81 風早1♂  
 烏来 25. VII. '81 青野1♂, 浅野8♂1♀, 及川3♂2♀, 渡辺11♂1♀,  
 26. VII. '81 三河内2♀  
 陽明山 26. VII. '81 及川1♂  
 南国ムード満点のこの蝶は、烏来に多産する。採集方法は2つ、1つは花に吸蜜に来たのを採る、もう1つは蝶道をみつけ待ち採りする。もっとも待ち採りの場合、採れるのはすべて♂である。それにしても、この蝶が大空を舞う姿は非常に美しく、かつ南国的で最も印象に残った蝶である。
22. タイワンシロチョウ  
 六龜 22. VII. '81 及川1♂  
 三地門 24. VII. '81 風早1♀  
 烏来 25. VII. '81 青野2exs., 浅野6♂, 及川4♂1♀, 渡辺4♂
23. ウスムラサキシロチョウ

六亀 22. VII.'81 風早1♂, 三河内1♂

鳥来 25. VII.'81 浅野1♂

24. タイワンモンシロチョウ

六亀 22. VII.'81 三河内1♂ 1♀

鳥来 25. VII.'81 浅野1♂ 1♀, 及川1♂, 渡辺2♂ 2♀

大溪 25. VII.'81 風早4♂ 1♀

25. クロテンシロチョウ

三地門 24. VII.'81 青野1ex., 浅野1♂, 風早1♀

鳥来 25. VII.'81 及川1♂

26. ベニモンシロチョウ

三地門 24. VII.'81 及川2♂, 渡辺2♂

本種は台湾産 *Delias* 属4種中, 最も美しいものだと思う。三地門において本種は樹間をゆるやかに飛び, ネットの中でコンニチワという感じだった。もっとも, 一度採り逃すとその飛翔は急速に速まり“見果てぬ夢となりにけり”となるのだが。

### マダラチョウ科

27. スジグロカバマダラ

三地門 24. VII.'81 浅野2♂, 及川1♂

鳥来 25. VII.'81 浅野2♂

28. ヒメコモンアサギマダラ

鳥来 25. VII.'81 青野3exs., 及川1♂

29. リュウキュウアサギマダラ

六亀 22. VII.'81 三河内2exs.

三地門 24. VII.'81 及川1♂, 渡辺1♂

鳥来 25. VII.'81 青野2exs., 浅野2♂, 及川3♂, 渡辺3♂

大溪 25. VII.'81 風早1♂

30. コモンアサギマダラ

鳥来 25. VII.'81 及川1♂

大溪 25. VII.'81 風早1♂

31. ウスコモンアサギマダラ

鳥来 26. VII.'81 三河内2exs.

32. ツマムラサキマダラ

六亀 22. VII.'81 三河内1♂

三地門 24. VII.'81 及川1♂

鳥来 25. VII.'81 青野1♀, 浅野2♂, 及川2♂ 1♀, 渡辺2♂

33. ルリマダラ

六亀 22. VII.'81 三河内1♂, 渡辺1♀

三地門 24. VII.'81 渡辺1♂

## 34. マルバネルリマダラ

三地門 24. VII. '81 三河内 1 ♂  
 烏来 25. VII. '81 青野 2 exs., 及川 1 ♂, 渡辺 1 ♀

## ジャノメチョウ科

## 35. コウラナミジャノメ

三地門 24. VII. '81 風早 1 ♂, 渡辺 1 ♂  
 烏来 25. VII. '81 青野 1 ex.

## 36. タイワンウラナミジャノメ

烏来 25. VII. '81 渡辺 1 ♀  
 大溪 25. VII. '81 風早 1 ♂

## 37. メスチャヒカゲ

陽明山 26. VII. '81 及川 1 ♂

## 38. シロオビヒカゲ

三地門 24. VII. '81 浅野 1 ♂  
 陽明山 26. VII. '81 及川 1 ♀

## 39. ウラキマダラヒカゲ

陽明山 26. VII. '81 及川 1 ♂ 2 ♀

## 40. ヒメヒヒツメジャノメ

六龜 22. VII. '81 風早 1 ♂  
 三地門 24. VII. '81 浅野 3 ♂

## 41. キレバヒヒツメジャノメ

三地門 24. VII. '81 浅野 1 ♀, 風早 1 ♂ 2 ♀

## 42. ウスイロコノマチョウ

三地門 24. VII. '81 風早 1 ♂ 1 ♀  
 烏来 25. VII. '81 渡辺 1 ♀

## 43. クロコノマチョウ

台北 28. VII. '81 三河内 1 ex.

## 44. シロスジマダラ

烏来 25. VII. '81 及川 1 ♂  
 陽明山 26. VII. '81 及川 2 ♂

## 45. ルリモンジャノメ

六龜 22. VII. '81 及川 1 ♂  
 三地門 24. VII. '81 浅野 5 ♂ 1 ♀, 渡辺 4 ♂  
 烏来 25. VII. '81 青野 4 exs., 及川 1 ♂, 渡辺 1 ♂ 1 ♀  
 大溪 25. VII. '81 風早 1 ♀  
 太魯閣 27. VII. '81 三河内 5 ♂ 1 ♀

最初、飛翔中のものを見た時はルリマダラの一種かとも思ったこの蝶は、どこでも

も、そのジャノメチョウ科の蝶に似ぬ美しい姿で我々の目を楽しませてくれた。

### タテハチョウ科

#### 46. ヒョウマダラ

烏来 25. VII. '81 及川1♂, 渡辺1♂

#### 47. キミスジ

六龜 22. VII. '81 及川1♂

三地門 24. VII. '81 浅野1♀

烏来 25. VII. '81 青野1ex., 渡辺1♂4♀

#### 48. カバタテハ

六龜 22. VII. '81 青野1ex., 渡辺1♂

三地門 24. VII. '81 浅野1♂, 及川1♂

台北 28. VII. '81 三河内1ex.

#### 49. ツマグロヒョウモン

陽明山 26. VII. '81 及川1♀

#### 50. ルリタテハ

陽明山 26. VII. '81 及川1♀

台北 28. VII. '81 三河内1♀

#### 51. メスアカムラサキ

三地門 24. VII. '81 浅野1♂1♀, 及川2♂1♀, 渡辺1♂1♀

#### 52. リュウキュウムラサキ

六龜 22. VII. '81 青野2exs., 及川1♀, 三河内5♂1♀, 渡辺1♂

三地門 24. VII. '81 青野2exs., 浅野3♂1♀, 及川2♂3♀, 風早1♂, 三河内1♂, 渡辺1♂

烏来 25. VII. '81 青野2exs., 浅野3♂, 渡辺2♂

大溪 25. VII. '81 風早1♂

陽明山 26. VII. '81 及川1♂

どこからともなく現われ紫色をギラつかせてピタッととまる。“黙って歩けばいつでも採れる”ほどの普通種ながら、やや粗雑なその美しさは、やはり今回の採集旅行でも代表選手の1つである。

#### 53. タテハモドキ

六龜 22. VII. '81 青野1ex.

三地門 24. VII. '81 三河内2♀

烏来 25. VII. '81 渡辺2♂

大溪 25. VII. '81 風早4♂

#### 54. クロタテハモドキ

烏来 25. VII. '81 及川1♂

#### 55. ジャノメタテハモドキ

- 六龜 22. VII. '81 浅野 1 ♂ 1 ♀, 及川 4 ♂, 風早 2 ♂, 渡辺 3 ♂  
 三地門 24. VII. '81 風早 2 ♂, 三河内 1 ex.
56. キオビコノハ  
 三地門 24. VII. '81 風早 1 ♀
57. コノハチョウ  
 六龜 22. VII. '81 及川 1 ♂  
 三地門 24. VII. '81 三河内 1 ♂
58. コミスジ  
 六龜 22. VII. '81 及川 1 ♀  
 烏来 25. VII. '81 渡辺 1 ♂
59. リュウキュウミスジ  
 六龜 22. VII. '81 風早 2 ♂ 1 ♀, 渡辺 1 ♂  
 三地門 24. VII. '81 青野 2 exs., 浅野 4 ♂, 及川 1 ♂, 風早 2 ♂  
 烏来 25. VII. '81 渡辺 1 ♀
60. タイワンミスジ  
 六龜 22. VII. '81 三河内 1 ex.  
 三地門 24. VII. '81 浅野 1 ♂, 及川 1 ♀, 渡辺 1 ♂
61. ホシミスジ  
 太魯閣 27. VII. '81 三河内 1 ♂
62. タイワンホシミスジ  
 烏来 25. VII. '81 渡辺 1 ♂
63. シロミスジ  
 三地門 24. VII. '81 青野 1 ex., 浅野 2 ♂
64. ヤエヤマイチモンジ  
 三地門 24. VII. '81 浅野 1 ♂
65. タイワンイチモンジ  
 三地門 24. VII. '81 浅野 1 ♀  
 烏来 25. VII. '81 青野 1 ♂
66. イシガケチョウ  
 六龜 22. VII. '81 風早 1 ♂  
 烏来 25. VII. '81 青野 2 exs., 浅野 3 ♂ 1 ♀, 渡辺 1 ♂ 1 ♀  
 太魯閣 27. VII. '81 三河内 1 ♂
67. アカボシゴマダラ  
 三地門 24. VII. '81 浅野 1 ♀, 及川 1 ♂, 風早 1 ♀, 渡辺 1 ♂  
 烏来 25. VII. '81 青野 1 ex., 及川 1 ♀  
 陽明山 26. VII. '81 及川 1 ♀
- 日本では分布域のせまいこの蝶も、台湾では普通種である。ただ、今回の採集旅行には継竿を持って行かなかったので、梢上高くを飛ぶこの蝶の採集はまさに“指

をくわえてじっとガマンの子”であった。

68. フタオチョウ

六亀 22. VII. '81 三河内1♀

シジミチョウ科

69. ウラギンシジミ

六亀 22. VII. '81 渡辺1♀

鳥来 25. VII. '81 青野1♂, 渡辺2♀

70. エグリシジミ

六亀 22. VII. '81 渡辺1♂

三地門 24. VII. '81 風早2♂

71. ムラサキシジミ

鳥来 25. VII. '81 渡辺1♀

72. ヒイロシジミ

三地門 24. VII. '81 及川1♂

鳥来 25. VII. '81 渡辺1♀

陽明山 26. VII. '81 及川1♀

73. ミツボシフタオツバメ

三地門 24. VII. '81 青野1ex., 風早1♂, 渡辺1♂1♀

74. タイワンフタオツバメ

三地門 24. VII. '81 風早1♀

鳥来 25. VII. '81 青野1ex.

75. ルリウラナミシジミ

六亀 22. VII. '81 風早1♂, 渡辺1♂

やや薄暗い林縁で、木漏れ日に強い金属光沢のブルーをきらめかせて飛ぶこの蝶は、それだけで一枚の絵だった。天候に恵まれていればもう少し、と思うと残念でならない。

76. ヒメウラナミシジミ

三地門 24. VII. '81 渡辺1♂

77. アマミウラナミシジミ

六亀 22. VII. '81 風早2♂

鳥来 25. VII. '81 浅野1♂

78. ウラナミシジミ

六亀 22. VII. '81 風早2♂

三地門 24. VII. '81 浅野1♀, 渡辺1♂1♀

79. コシロウラナミシジミ

三地門 24. VII. '81 渡辺1♂

80. シロウラナミシジミ

三地門 24. VII.'81 浅野3♂, 風早1♂2♀, 三河内1♂, 渡辺3♂1♀

鳥来 25. VII.'81 青野1ex., 渡辺1♂1♀

大溪 25. VII.'81 風早1♂

“白い花びらの舞”あるいは“こぼれ落ちる真珠”三地門の樹林でこの蝶を叩き出した時の感じは、そうしたメルヘンの世界だった。とにかく、ごく普通に見られる比較的大型のシジミチョウ。

#### 81. ヤマトシジミ

寿山 23. VII.'81 三河内1♂

鳥来 25. VII.'81 青野1♂, 渡辺1♀

大溪 25. VII.'81 風早2♂3♀

#### 82. カクモンシジミ

六龜 22. VII.'81 風早3♂

三地門 24. VII.'81 浅野1♀

#### 83. タイワンクロボシシジミ

三地門 24. VII.'81 青野1ex., 浅野1♂

#### 84. タイワンクロツバメシジミ

六龜 22. VII.'81 風早1♂, 渡辺1♂

三地門 24. VII.'81 青野1ex.

#### 85. タイワンルリシジミ

三地門 24. VII.'81 浅野1♀, 渡辺1♂1♀

鳥来 25. VII.'81 渡辺1♀

### セセリチョウ科

#### 86. タイワンアオバセセリ

鳥来 25. VII.'81 浅野1♂, 渡辺2♂

#### 87. クロセセリ

六龜 22. VII.'81 渡辺1♂

三地門 24. VII.'81 風早1♂

#### 88. タイワンキマダラセセリ

三地門 24. VII.'81 青野2exs., 渡辺1♂

鳥来 25. VII.'81 青野1ex., 浅野1♂, 渡辺1♂1♀

大溪 25. VII.'81 風早1♀

#### 89. タケアカセセリ

鳥来 25. VII.'81 浅野1♂, 渡辺1♂

#### 90. ホリシャアカセセリ

六龜 22. VII.'81 風早1♂

三地門 24. VII.'81 浅野2♂, 風早1♂, 渡辺1♂

鳥来 25. VII.'81 青野1♂, 渡辺2♂

## 91. クロボシセセリ

烏来 25. VII. '81 渡辺 2 ♀

## 92. ホソバセセリ

烏来 25. VII. '81 浅野 2 ♀

## 93. キモンチャバネセセリ

六龟 22. VII. '81 風早 1 ♂

烏来 22. VII. '81 渡辺 1 ♂

## 94. ヒメイチモンジセセリ

寿山 23. VII. '81 三河内 1 ♀, 渡辺 2 ♀

三地門 24. VII. '81 青野 1 ex., 浅野 1 ex.

烏来 25. VII. '81 青野 1 ex.

大溪 25. VII. '81 風早 3 ♂

## 95. チャバネセセリ

三地門 24. VII. '81 風早 1 ♂

## 96. トガリチャバネセセリ

三地門 24. VII. '81 渡辺 1 ♀

## 97. アトムモンセセリ

三地門 24. VII. '81 浅野 1 ♂

烏来 25. VII. '81 渡辺 1 ♂

## ま　と　め

以上、今回の台湾旅行における蝶類の採集データを種別にまとめてみたが、これを個人別・科別にまとめると次の通りになる。各人の採集対象が微妙に違うのが面白い。

科名	氏名	青野	浅野	及川	風早	三河内	渡辺
アゲハチョウ科		6	8	8	2	11	8
シロチョウ科		5	7	10	9	10	9
マダラチョウ科		4	3	6	2	5	4
ジャノメチョウ科		2	4	5	6	2	4
タテハチョウ科		9	12	14	8	10	13
シジミチョウ科		7	6	2	10	2	13
セセリチョウ科		3	7	0	6	1	10
計		36種	47種	45種	43種	41種	61種

今回の旅行は、大雨に逢うなどして、結局ほぼ全員が行ったところといえば、六龟、三地門、烏来の三ヵ所だけだったが、その中でさえ100種近いものを探ることができたのだから、やはり“蝶の宝庫：台湾”というキャッチフレーズもそれなりのものである。しかし惜しむらくは、最も期待していた六龟での1日半を雨で流されてしまったのが悔まれる。“もし”という言葉は採集者にとって禁句であるが、もし7月22日の午後と23日が晴れて

いたら、10種程度は記録が増えたかもしれないと思うと非常に残念である。

また地形的にみても全て低山地とでもいうべきもので、平地及び山地での採集がなかつたことも心残りである。標高1000m以上のところへ行けば、いわゆる珍種を採集する可能性もあったのではないかと思う。

時期的にも台湾としては個体数そのものは多い季節ではなかったようで、例えば7月初旬であれば六亀にて“ウスキシロチョウ”を1人1日平均4000個体以上採集できるという話も聞いているし、6月下旬であればゼフィルスの類も期待できたのではないかと思う。事実、六亀の陳文龍氏の店で見た数多くの三角紙標本のデータをみても、6月20日から30日のものが圧倒的に多かった。いつの時期なら良い、ということはなかなか言えないが、次回行く機会に恵まれたなら、6月中・下旬から7月初旬にかけて、あるいは4月の春型の頃に行きたいと思う。

ともあれ初の試みとしての海外遠征であり、参加者間相互の親睦をはかれたことは無論のこと、それなりの成果を上げ得たことは、十分評価されてよいものである。

### III 甲虫類報告

吉原一美\*\*\*

今回の採集旅行を通じて甲虫は、概して、種類数・個体数ともに多いとは言えなかった。これは主として、採集時期が台湾の低地における甲虫類出現の盛期をはずれていたため、と思われる。そうした中での採集品のうち、現在までに同定が完了したものについて、その目録を以下に掲げる。これ以上に、コメツキムシ科、テントウムシ科、ハムシ科、ゾウムシ科等に属する採集品があるが、未同定のため今回は割愛することにした。

標本を同定していただいた紫田泰利氏（ハネカクシ科）、石田正明氏（コガネムシ科）、妹尾俊男氏（ヒゲナガゾウムシ科）の諸氏に紙面を借りて厚くお礼申し上げる。

なお、採集地名及び採集者名等は“蝶類報告”と同様である。

### 記録報告

#### ハンミョウ科 Cicindelidae

1. ヤツボシハンミョウ *Cicindela aurulenta*

陽明山 26. VII. '81 及川 3 exs.

#### ハネカクシ科 Staphylinidae

2. コガシラハネカクシ属の1種 *Philonthus* sp.

六亀 22. VII. '81 青野 1 ex.

#### コガネムシ科 Scarabaeidae

3. タイワンルリマコガネ *Popillia cyanea*

烏来 25. VII. '81 青野 1 ex.

4. ミカンアオドウガネ *Anomala trachypygia*  
三地門 24. VII. '81 青野 1ex.
5. キンカナブン *Phomborrhina splendida*  
陽明山 26. VII. '81 及川 3 exs.
6. コアオハナムグリ台湾亜種 *Oxycetonia jucunda formosana*  
烏来 26. VII. '81 三河内 1exs.
- タマムシ科 **Buprestidae**
7. タマムシ *Chrysochroa fulgissima*  
烏来 26. VII. '81 三河内 1ex.
- コメツキムシ科 **Elateridae**
8. *Hemiops flava*  
烏来 25. VII. '81 青野 1exs.
- ケシキスイムシ科 **Nitidulidae**
9. モンチビヒラタケシキツイ *Haptoncus oocularis*  
三地門 24. VII. '81 吉原 7 ex. 腐った果実に来ていた。
- ホソヒラタムシ科 **Silvanidae**
10. ミツカドコナヒラタムシ *Silvanoprus scuticollis*  
三地門 24. VII. '81 吉原 4 exs.
- カミキリムシ科 **Cerambycidae**
11. モンキカミキリ *Anoplophora horsfieldii*  
太魯閣 27. VII. '81 三河内 1ex.
- ヒゲナガゾウムシ科 **Anthribidae**
12. ワタミヒゲナガゾウムシ *Araecerus fasciculatus*  
六龜 23. VII. '81 吉原 1ex. 世界各地に分布する種である。
13. *Araecerus* spp.  
六龜 22. VII. '81 青野 2 exs.; 23. VII. '81 吉原 1ex.  
三地門 24. VII. '81 青野 1ex.
14. *Autotropis* sp.  
六龜 22. VII. '81 青野 1ex.  
日本産のスネアカヒゲナガゾウムシ *A. distinguendus* SHARP に近縁で、同種  
かも知れないという。
15. オビヒゲナガゾウムシ *Sintor fasciatus*  
六龜 22. VII. '81 浅野 1ex.

# 台湾のクマゼミとニイニイゼミ

及川正博

滋賀県滋賀郡志賀町小野朝日 2-10-1

今夏、倉昆の創立30周年記念行事の一環として、台湾採集旅行が実施された。筆者も同行させて頂き、大変有意義な体験をすることができた。今回の主な目的は蝶の採集だったが、筆者はセミに少なからず興味があり、幸運にも、台湾のクマゼミとニイニイゼミを採集する機会に恵まれた。一見して、これらは日本産のものと大した違いもない様だが、よく観察してみると、幾分違いが認められたのである。以下、その違いについて述べて行きたい。

話しの順序として先ず、クマゼミについて触れたい。台湾のクマゼミは7月24日、三地門でメス一頭、同26日、陽明山でオス一頭、メス一頭、計三頭採集した。日本で普通に見られるクマゼミ (*Cryptotympana japonensis* KATO) と鳴き声はほとんど一緒であるが、台湾のものは、日本のクマゼミの様にシャシャシャ……と鳴いた後、ジィジィジィジィ……という中休み的な区切り音を入れずに鳴き続けていた。従って、これはどうも日本のものとは違うぞというのが、筆者が初めてそれらの鳴き声を聞いた時の感想だったのである。また、日本のは主として午前中に盛んに鳴き、午後にはほとんど鳴き止んでしまうのに反して、台湾のは午後にも鳴き続け、夕暮れまで鳴き声が聞かれたのである。橋本治二氏著の『セミの生態と観察』(ニュー・サイエンス社) や他のセミについての解説から、本種はリュウキュウクマゼミ (*Cryptotympana okinawana* MATSUMURA) ではなかと思われる。岡山で採集したクマゼミと比較して、以下形態上の違いを解説してみたい。

先ず、体長(翅端まで)は両種それぞれ65mm内外であり変わらないが、日本産のクマゼミには♀の腹部第3腹節(背板)つまり背弁のすぐ下に白色帯が見られ、特に♀の場合、第2腹節の上(X隆起の下)の白色部は鮮明であるのに比べて、リュウキュウクマゼミでは、はっきりとは認められない。ひっくり返して腹を見てみると、クマゼミでは左右の側方が白く鮮かに浮き出ているのに反し、リュウキュウクマゼミでは、白色というよりは銀色で、くすんだ感じである。♂の腹弁もクマゼミの方がその色も鮮かで、リュウキュウクマゼミよりだいだい色(橙黄色)が濃い。さらに、クマゼミの場合、左の弁が右の弁の上にかぶさっているが、リュウキュウクマゼミでは逆に右の弁が左の弁にかぶさっている。次に額の部分に若干の差違が認められる。即ち、クマゼミは触角と複眼の間に左右それぞれ、さらには額の上にも橙黄色の線が入っているが、リュウキュウクマゼミには、これらの線は、前者ほどはっきりしない。

両種のきわだった違いは翅に見られる。全体にクマゼミの翅はリュウキュウクマゼミの

ものより黄色がかかっており、従って後者のものの方が透明度はまさっている。これは前翅・後翅両方に言えることだが、横脈と翅端脈（縦脈）両方ともクマゼミの方が太い。この傾向は翅の付け根に近づくにつれて著しい。両種の決定的な違いは何といつても、前翅に認められる。クマゼミの第1横脈と第2横脈は太く遠くから見ても目立つに比べ、リュウキュウクマゼミにはこれらが全然存在しない。

以上が両種の大体の違いである。クマゼミ属にはその他、ヨナクニクマゼミ、ヤエヤマクマゼミがおり、これらは日本の南の島々で見ることができる様である。今回の旅行で六亜に滞在した際、標本商の陳氏より、もう一種のクマゼミを頂いた。この方は全身真黒で、翅も一応透明ではあるが、前翅・後翅ともに基幹部に近づくにつれて、黒みが増している。体もクマゼミ・リュウキュウクマゼミよりは一回り大きく、全体に平べったい。本個体は♂で腹弁は右弁が左弁に重なっている。左右腹弁の側方、各腹板の左右側方、それに額の下部が、濃いだいだい色であるのを除いては、全身ほとんど真黒で、クマゼミ属の文字通り王様と呼ぶにふさわしい。クマゼミで問題になった第1・第2横脈も本個体でも顕著である。保育社の『図説世界の昆虫 I：東南アジア編』の119頁（図版30）にマエグロクマゼミ (*Cryptotympana aquila* WALKER) が紹介されているが、本個体はそれに間違いないと思われる。

クマゼミについてはこれ位にして、ニイニイゼミに移りたい。橋本治二氏は前掲書で、日本のニイニイゼミ属を、五種に分類しているが、我々が普通に目にすることは、いわゆるニイニイゼミ (*Platypleura kaempferi* FABRICIUS) である。今回台湾で採集したものは、7月24日、三地門で得た♂一頭と同26日、陽明山で得た♀一頭である。前者は体長31mm（翅端まで）で極めて小型のニイニイで日本では奄美大島・沖縄本島で普通に見られるというクロイワニイニイ (*Platypleura kuroiwai* MATSUMURA) と思われる。後者は体長38mm（翅端まで）でニイニイゼミよりやや大きい。オスは採集できなかつたので何とも言えないが、メスより小型であろう。大きさと前翅の褐黒色の雲状紋から判断してヤエヤマニイニイ (*Platypleura yaeyamana* MATSUMURA) と思われる。それでは、それぞれの特色をニイニイゼミと比較しながら述べてみたい。

先ずクロイワニイニイだが、その鳴き声はニイニイゼミとほぼ同じであった。本個体が三地門の高砂族の小学校校庭の楠の木と思われる大木で鳴いているのを採集して、実際に手にするまではニイニイゼミとばかり思い込んでいた位である。もっともよく鳴き比べてみれば、クマゼミ同様、幾らかの違いはあることだろう。ヤエヤマニイニイにもこれは全く言えることで、筆者が陽明山で聞いたオスの鳴き声は、例のニイニイゼミのチー（ジー）と長く続けて鳴くのと区別できなかつた。さて、筆者の所有するニイニイゼミ、クロイワニイニイ、ヤエヤマニイニイの三種を並べてみると、形態上ではすでに述べた大きさ以外したる違いは見当たらない。ニイニイゼミ属特有の前胸背片はそれぞれ一様に角張っている。ただし、クロイワニイニイは全体的に前胸背と中胸背の色が他の二種に比べてやや明るいことが認められる。クロイワニイニイで一つ目立つ特色は、オスにもかかわらず、第8腹板の両側に微毛がはえているということである。これはニイニイゼミのオスでは見られない。（メスには普通に見られるが。）

さて、三種の最も大きな違いは、前翅の紋様の違いに明瞭に見い出される。ニイニイゼミでは、個体によって多少違いはあるが、通常前翅上部の褐黒色の雲状紋と縦脈の端に見られる錨状紋とがくつかずにそれぞれ、分かれている。クロイワニイニイも同様で、下の方の紋様はニイニイゼミの様にはっきりした錨の形をみせず、色も極めて薄い。従って側縁透明部分が広い。他方、ヤエヤマニイニイの場合、これら二種の紋様は分離することなく、くつついてしまっている。そして、ニイニイゼミやクロイワニイニイに比して、全体の紋様の色はずっと暗色化している。しかも、前翅の基方に行く程、その傾向は強い。クロイワニイニイの後翅の外縁部には広さが目立つと北隆館の『原色昆虫大図鑑Ⅲ』には書かれているが、筆者の標本で見た限り、大した広さは認められない。また、ヤエヤマニイニイの前胸背の「側縁が著しく側方に伸長し、ほとんど直角を呈し」といふとされているが、筆者の標本ではそう思われない。橋本氏の『セミの生態と観察』によれば、ニイニイゼミは口吻が腹弁の縁を越し、ヤエヤマニイニイでは腹弁の縁を越さないと説明されているが、筆者所有のメスの口吻の長さを見る限りでは、そうは思えない。オスを採集して確めてみたく思う。

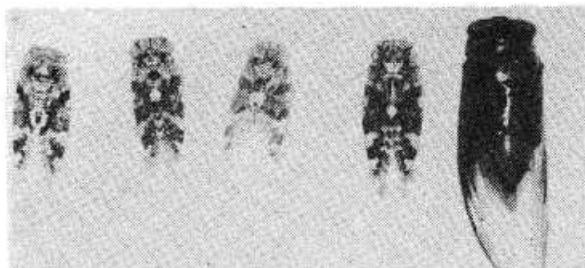


写真1. 左より

- ニイニイゼミ 1 ♂ July 19, 1981 (岡山)  
 ヤエヤマニイニイ 1 ♀ July 19, 1981 (岡山)  
 マエグロクマゼミ 1 ♂ ? ? ? ( ? )

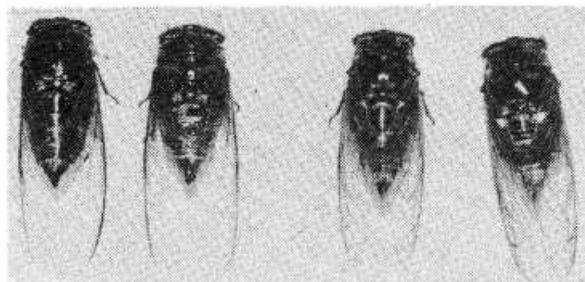


写真2. 左より

- リュウキュウクマゼミ 1 ♂ July 26, 1981 (陽明山)  
 クマゼミ 1 ♂ Aug. 9, 1981 (岡山)  
 1 ♀ Aug. 3, 1981 (岡山)

以上、台湾で採集したクマゼミとニイニイゼミについて、それぞれ日本産（岡山産）のものと比べてみた次第である。今後もこの夏の人気者セミについての知見をふやして行きたいと考えている。今年もハルゼミに始まりチッチゼミでセミのシーズンも終ってしまった。ハルゼミのメスを未だ手にしたことのない筆者は、この五月夢中で松林を捜し歩いたが、とうとうとれず仕舞いだった。このことが今懐かしくも残念に思い出される。来年を期したい。

## 岡山市内でスミナガシとアオバセセリを採集

及川正博

岡山県南部では比較的まれとされている下記の二種を県下のハイキングコースとして有名な操山自然休養林で採集したので報告しておく。

1. *Dichorragia nesimachus nesiotes* FRUHSTORFER (スミナガシ)

1 ♂, 2. VIII. 1980, M. Oikawa leg.

2. *Choaspes benjaminii japonica* MURRAY (アオバセセリ)

1 ♂, 11. IX. 1981, M. Oikawa leg.

スミナガシは操山園地へ下る道と旗振台へ下る道とが交叉する頂上で占有行動をとっていたもので、時刻も5時頃で陽も落ち始めた頃であった。ものすごいスピードで飛び回っていたのだが、附近のアベマキの葉にとまつたのを捕えた。かなり新鮮な個体である。本年(1981年)も期待してこのコースを回ってみたのだが、残念ながら一頭も目撃すらできなかった。そのかわり、アオバセセリを採集できたのは収穫であった。こちらはアベマキ、コナラ、松などの林道の上を占有行動していたが、近くをたまたま通り過ぎたハチらしきものを追飛して戻って来た所をネットしたものである。個体は、あまり新鮮ではなかった。翌日、先の頂上でもう一頭目撃したが、こちらは取り逃してしまった。

両者ともここに土着しているのかどうかはわからないが、食草のアワブキ科の植物を発見することが決め手となろう。なお、西大寺の芥子山でも、両種の採集報告が三熊氏によって報告(「すずむし」第117号)されているので、土着の可能性は大であると思われる。

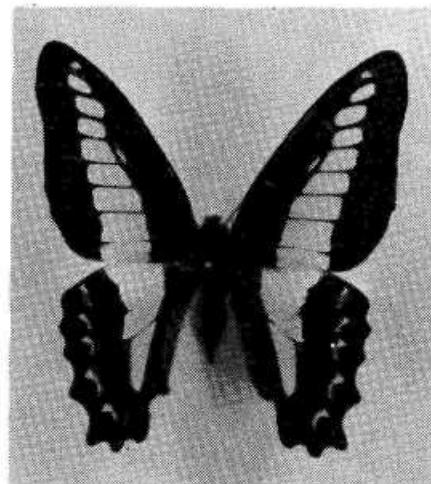
## アオスジアゲハの異常型を採集

及川正博

アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* LINNAEUS  
春型メスの異常型を採集したので報告をおきたい。場所は岡山市操山自然休養林のハイキングコースから仏心寺へ降りる途中の小道で飛翔中を捕えた。

1 ♀, May 9. 1981, M. OIKAWA leg.

写真で明らかな様に、左右前翅のアオスジの内側中室にそれぞれ普通の型には見られない極めて細長い楕円形模様がひとつあるのがわかる。なお、この異常型については、藤岡知夫著『日本産蝶類大図鑑』(講談社)にも説明がなされているので参照されたい。



## アオスジアゲハの斑紋異常型

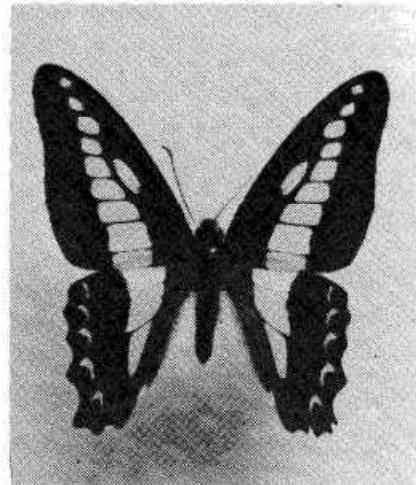
風早保男（都窪郡山手村地頭片山576）

アオスジアゲハの前翅中室に青緑色紋の出現した個体について、今回及川氏が報告されるので筆者の手許にある標本について報告する。

1978年秋、横浜市港南区野庭町のクスノキで幼虫採集、飼育したもののうちの1♀で1979年4月22日羽化、採集、飼育者は筆者の孫風早文章（当時6才）。

この種の異常型については

1. 江崎・中原両氏による1911年の台湾産の著しく幅広くなった青緑帶と中室紋の出現 (ZEPHYRUS Vo 1, 2: 1930)
  2. 野村健一氏による福岡県産の3個体 (1934, 1936, 1937) (ZEPHYRUS Vo 1, 7: 1937)
  3. 三木将義氏による徳島県産の1♀ (1977) (ちょうちょう Vo 1, 2 No. 1 1937)
  4. 藤岡知夫氏による福岡県立花山産の1♀ (24, IV. 1970) (日本産蝶類大図鑑: 1975)
- 以上のような報告がみえる。尚黒化型(スルスミアゲハ)は青緑紋のもの(過剰紋)よりも多く出現するとある。過剰紋の出現は性別の明らかなものではばかりのようである。いずれにしても、この種にはタイワンタイマイのように中室に紋のものでは潜んでいた遺伝子が潜在しているのであろう。



## 岡山県でナガサキアゲハの越冬を確認

岡田耕一（岡山市奥田本町13-8）

中国地方では古くから広島県と山口県でナガサキアゲハの生息が確認されていたが、岡山県では非常に稀な蝶であった。私の観察でも約40年前、旧第六高等学校北側の土手でヘクソカズラで吸蜜中の1♀の目撃例があるにすぎない（未発表）。これは岡山県における最初のナガサキアゲハの目撃例と思われる。最近では1951年倉敷市で目撃されて以来、主として岡山県の南西部で生息が確認されている。1979年9月邑久郡、日生町方面を探索したが、岡山県東南部では発見することができなかった。岡山市中心部では、1977年9月9日岡山市奥田本町の自宅の庭で1♀を目撃、1981年7月12日岡山市奥田本町の自宅付近で1♀を目撃、1981年7月19日岡山市大雲寺町で1♀を目撃するなど次第に成虫を目撃する機会が多くなりつつある。1980年には岡山市東古松のハッサクから幼虫を2exs. 採集し羽

化されている。

1978年笠岡市、鴨方町、寄島町に多数のナガサキアゲハが生息しているのを発見し、主として笠岡市内で観察した。この地では5月中旬ナガサキアゲハが多数見られることから越冬の可能性は充分推察されるが、次のようにして越冬を確認した。

(1)広いミカン畑でナガサキアゲハの越冬蛹を発見するのは極めて困難であるが、越冬が大体終了したと考えられる1980年2月24日笠岡市内のミカン畑のすぐそばの石垣の間で越冬蛹を発見した。この蛹は褐色で体長は44mmであった。これを岡山市内の自宅に持ち帰り屋外に放置しておいたところ、1980年5月10日1♀が羽化した。

(2)1980年5月18日笠岡市でウンシュウミカンに付着していた越冬蛹から羽化したばかりの1♀を発見した。

(3)1979年9月15日笠岡市でウンシュウミカンから4令幼虫を1ex. 若令幼虫を2exs. 採集し岡山市内の自宅に持ち帰り室内でハッサクの葉を与えて飼育した。ハッサクの葉は大きいのでアゲハチョウ科の蝶の飼育に最適である。この3exs. の幼虫は9月25日から10月5日にかけて蛹化したので、11月1日から屋外に出して観察した。また、1979年11月11日笠岡市内のナツミカンから終令幼虫を1ex. 採集し11月17日蛹化したので、屋外に置いて観察した。この4exs. の蛹は1980年5月10日から5月19日にかけて全例羽化した。

1980年8月17日倉敷市宇野津でナガサキアゲハの1♀を採集し飼育箱に入れて産卵させた。8月19日3卵をえたので室内で飼育した。この3卵は8月23日から8月24日にかけて孵化、9月13日から9月14日にかけて蛹化したので、屋外に出して観察した。その結果、1981年5月12日から5月14日にかけて全例羽化した。1例をあげると、8月19日産卵、8月23日孵化、9月14日蛹化、1981年5月12日羽化した。つまり、卵期4日、幼虫期22日、蛹期240日であった。

1980年9月15日倉敷市宇野津でヒガンバナで吸蜜中の1♀を採集し飼育箱に入れて産卵させた。9月16日から9月18日にかけて産卵、9月20日から9月24日にかけて孵化、10月12日から10月28日にかけて25exs. の蛹をえたので、11月1日から屋外に放置して観察した。その結果、1981年5月9日から5月14日にかけて2exs. を除いて全例羽化した。

1980年9月23日倉敷市児島稗田町で3令幼虫を1ex. ウンシュウミカンから採集、10月11日蛹化したので屋外に出しておいたところ、1981年5月14日羽化した。

1980年10月10日岡山市東古松でハッサクから5令幼虫1ex. 4令幼虫1ex. を採集、10月17日から10月25日にかけて蛹化、11月1日から屋外に出しておいたところ、1981年5月10日から5月12日にかけて2例とも羽化した。

以上のように、1979年から1981年にかけてナガサキアゲハの越冬を調査したが、1980年から1981年にかけての冬は気温が特に低く、1981年2月27日の如きは最低気温が-9.1℃で、岡山地方気象台が明治24年に発足して以来の最低気温であった。また、1981年2月26日は日中最高気温が-2.3℃で観測史上最低値であった。このような寒さにもかかわらずほとんど全例が羽化しており、ナガサキアゲハの蛹は低温に対して比較的抵抗力が強いと考えられる。次に、1979年から1981年にかけて冬季の岡山市内の月平均気温、平均最低気温、最低気温を表にして示す。

	平均 気温	平均 最低 気温	最 低 気温
1979年12月	6.8 ℃	1.4 ℃	-3.2 ℃
1980年1月	3.4 ℃	-1.3 ℃	-5.7 ℃
〃 2月	2.4 ℃	-2.2 ℃	-6.1 ℃

	平均 気温	平均 最低 気温	最 低 気温
1980年12月	4.2 ℃	-0.5 ℃	-8.0 ℃
1981年1月	1.5 ℃	-3.2 ℃	-6.3 ℃
〃 2月	3.3 ℃	-1.5 ℃	-9.1 ℃

	平均 気温	平均 最低 気温
平 年12月	5.7 ℃	0.6 ℃
〃 1月	3.4 ℃	-1.3 ℃
〃 2月	4.1 ℃	-0.9 ℃

## ナガサキアゲハの分布と生態について

岡 田 耕 一

### 1. 分 布

主として岡山県南部のミカン畑を中心に調査した結果について記す。本種は岡山県で最近分布を拡大しつつあると考えられるので、ネガティブ・データについても記しておく。

岡山市奥田本町 9. IX. 1977, 1♀目撃.

玉野市八浜町28. V. 1978, ミカンの花で吸蜜中の1♀を採集。他に1♀を目撃.

玉野市大藪付近28. V. 1978, 15. VII. 1979, 本種を目撃できず.

玉野市八浜 16. VII. 1978, ネムノキの花で吸蜜中の1♂ 1♀を採集。他に1♀と多数の♂を目撃.

浅口郡寄島町, 鴨方町, 笠岡市正頭, 長浜, 鳥ノ江, 夏目, 石砂付近27. VII. 1978, 多数の本種を目撃, 採集す。以後現在に至るまで同所で多数の卵, 幼虫, 蛹, 蛹殼, 成虫を採集す。

邑久郡南部, 日生町方面16. IX. 1979, 本種を目撃できず.

倉敷市児島柳田町21. IX. 1980, 1♀目撃.

倉敷市中央10. X. 1980, 1♀目撃.

倉敷市宇野津 10. X. 1980, 1♀目撃.

岡山市東吉松 10. X. 1980, ハッサクより5令幼虫1ex. 4令幼虫1ex. を採集, 羽化させている。

岡山市奥田本町 12. VII. 1981, 1♀目撃.

岡山市大雲寺町 19. VII. 1981, 1♀目撃.

岡山市野田屋町 4. IX. 1981, 1 ♀目撃.

上記のように岡山市の中心部でも最近しばしば目撃できるようになった。また、岡山県の東南部では確認できなかった。

## 2. 訪花と吸水

笠岡市正頭 27. VIII. 1978, カボチャの花で吸蜜。

笠岡市夏目 15. IX. 1980, ルコウソウの花で吸蜜。

倉敷市宇野津, 稲田 14. IX. 1980, 15. IX. 1980, 21. IX. 1980, 28. IX. 1980, クロアゲハ, アゲハと共にヒガンバナの花で吸蜜。

笠岡市夏目 18. V. 1980, 1 ♀が吸水していた。

## 3. 交尾

2例目撃した。

笠岡市夏目 18. V. 1980, ウンシュウミカンに付着していた蛹から羽化し翅が伸びたばかりの♀に♂が飛来して尾尾した。♀がミカンの枝にとまり、♂は脚をちぢめて尾端で♀にぶら下がっていた。交尾飛翔は♀+♂であった。

笠岡市夏目 26. VIII. 1980, ユスラウメに付着していた蛹から羽化後翅が伸びたばかりの♀に♂が飛来して交尾した。♀がユスラウメの枝にとまり、♂は尾端で♀に接してぶら下がっていた。

## 4. 産卵

ミカンの葉にとまり翅をふるわせ尾端をまげて葉裏に1卵ずつ産卵する。新梢ばかりではなく成葉にも産卵する。モンキアゲハは新芽、新梢に産卵することが多く、1卵ずつ産卵するが、1か所に多数の卵が見られることがある。

## 5. 天敵

今まで野外で採集した卵、幼虫、蛹を飼育した場合、ヤドリバエ、ヒメバチで死亡したものは1例もなかった。野外でアゲハの蛹は死亡しているものを見かけるが、ナガサキアゲハでは少ない。倉敷市宇野津で1例、笠岡市夏目で1例野外で死亡した蛹を見た。また、笠岡市内の1軒の農家の壇、軒下、ダイダイで死亡した蛹を多数認めた。本種は岡山県下では比較的最近分布を拡大した種であり、ヤドリバエ、ヒメバチ等の天敵が少ないのでないかと考えられる。

# チャイロホソヒラタカミキリの記録

## 山地治

チャイロホソヒラタカミキリ *Phymatodes testaceus* (LINNE) は近年県内各地で採集されているようであるが、岡山市内において採集されているので報告する。標本のご提供をいただいた皆木国義氏にお礼申し上げる。

1♀、岡山市国富 9. VI. 1978、皆木国義採集、灯火に飛來したそうである。

## ウラナミジャノメの2化を採集

織田明文 (〒701-12 岡山市佐山2105-9)

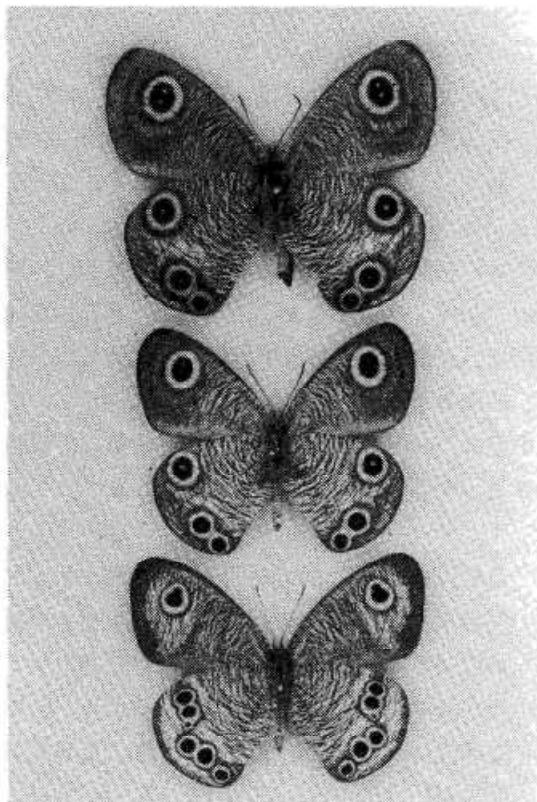
ウラナミジャノメ *Ypthima motschulskyi* BREMER et GREY は、岡山県内各地から採集されているが、産地は局限されており、その個体数は多くない、近似のヒメウラナミジャノメと思いつ込まれて採集されていない事もあるようだが、いずれにしても、この蝶に関しては調査不足の部分が多い。

筆者は、1981年6月22日に岡山市奥矢津でこの美しい蝶3頭にめぐりあり「記念写真」を撮影後、その内の1頭を採集する幸運に恵まれた。個体はいずれも新鮮で、発生間もないものであると思われた。その後、数回にわたり当地を訪れたが、目撃すらできなかつた。一方、本種は本州の暖地以西では年2回発生が普通で、第1化は6月中旬～7月上旬、第2化は8月下旬～9月中旬に発生する。<sup>1)</sup>といわれているが、県内での2化の確実な報告例はこれまでにないようである。<sup>2)</sup>

そこで、2化の発生期と考えられる8月下旬～9月に的を絞って調査したところ、次のとおり採集することができたので報告しておきます。

岡山市奥矢津(40m) 1♂, IX. 5, 1981.

この個体は、きわめて新鮮であり、また、開張約3cmと6月採集の個体に比べてかなり小型であり、同日同所で採集したヒメウラナミジャノメよりも小さい程であった。(写真参照)



—岡山市奥矢津産—

(写真上から)

ウラナミジャノメ ♂ (1化) VI. 22, 1981

ウラナミジャノメ ♂ (2化) IX. 5, 1981

ヒメウラナミジャノメ ♂ IX. 5, 1981

### 参考文献

- (1) 福田晴夫ほか(1972). 原色日本昆虫生態図鑑(チョウ編), 保育社.
- (2) 倉敷昆虫同好会(1972). 岡山県の蝶, すずむし, 第108号

## ミヤマチャバネセセリを岡山市内で採集

織 田 明 文

ミヤマチャバネセセリ *Pelopidas jansonis* BUTLER の岡山県内における従来の記録は “すずむし” 108号の「岡山県の蝶」<sup>1)</sup>に記載されているが、その後新産地として、尾塔順三氏の真庭郡勝山町星山 3 ♀, 4 ♀, VII. 7, 1972 1 ♀, 2 ♀, VII. 29, 1975 阿哲郡大佐山 1 ♀, 2 ♀, VII. 10, 1975<sup>2)</sup> 難波通孝氏の新見市草間 1ex., VI. 2, 1974 新見市下長屋 1ex., VI. 12, 1974 新見市長屋 1ex., VI. 10, 1975<sup>3)</sup> 新見市花見山 VII. 3, 1975<sup>4)</sup> 岸清己氏他の久米郡久米南町中糾 VII. 23, 1975<sup>5)</sup> が報告されている。

これらの記録は主に県北部に集中しており、青野孝昭氏の総社市（旧吉備郡昭和町）高滝山 1ex., V. 26, 1957<sup>6)</sup> 横田正義氏の御津郡加茂川町上田東 V. 24, 1970<sup>1)</sup> 岸清己氏他の久米郡久米南町中糾 VII. 23, 1975<sup>5)</sup> が、県中部の記録としてあるものの、県南部からの報告は見当らない。

筆者は、1981年7月10日に金山南西麓の、岡山市栢谷（標高100m付近）において、1 ♀, を採集したので分布資料として報告します。

### 引 用 文 献

- (1) 倉敷昆虫同好会 (1972). 岡山県の蝶. すずむし, 第108号: 7~8
- (2) 尾塔順三 (1975). 岡山県のチョウ未発表の産地. すずむし, 第112号: 33~34
- (3) 難波通孝 (1975). 岡山県産蝶類の分布に関する知見. すずむし, 第112号: 31
- (4) 難波通孝 (1976). 蝶類野外記 (その4). 臥牛, No. 10: 40~41
- (5) 岸清己, 水島靖夫, 岸洋司 (1976). 久米郡久米南町の蝶類22種について. すずむし, 第113号: 34
- (6) 青野孝昭 (1957). 高滝山付近採集記. すずむし, Vo 1, 7, No. 2: 33~35

### テングチョウの第2化について

中 村 具 見

テングチョウ *Libythea celtis celtooides* FRUHSTORFER は、通常年1回の発生で成虫越冬するが、奄美大島では秋期に第2化が発生し、また、長野県など本州の一部でも部分的な第2化の発生することが確認されている。<sup>1)</sup>

岡山県では、瀬戸内沿岸部で5月下旬～6月上旬、吉備高原で5月下旬～7月上旬、中国山地で6月下旬～7月上旬に新しい成虫が見られる<sup>2)</sup>が、化性に関する報告は未だないようである。

筆者は、次のとおり、本種の第2化と思われる例を確認することができたので報告しておく。なお、調査に協力された小野克己、横山隆、近藤要一の各氏に深謝いたします。

川上郡備中町長屋 (160 m) 虹 2 exs, 終令幼虫 3 exs, July 5, 1981

採集したエノキは、陽当たりのよい南向斜面の道路に面した林縁にある樹高3mくらいの小さな木で、手の届く地上1.5~2m付近の横に伸びた枝の先端部の若い葉（いわゆる土用芽）に多くの食痕が認められたため調べたところ、食痕のあった場所で幼虫を、またそれよりもさらに樹幹に近い、半日陰の枝の葉裏において蛹を採集することができた。

持ち帰った蛹からはⅦ. 13に2♀が羽化したが、備中町付近における自然状態での第1化成虫は、前記の吉備高原地域における本種の出現期を考えると、大体6月上旬に発生するものと思われるので、今回得られた個体は部分的な第2化である可能性が強い。

#### 参考文献

- (1) 福田晴夫他 (1972) 原色日本昆虫生態図鑑 III チョウ編, 保育社
- (2) 倉敷昆虫同好会 (1972) 岡山県の蝶, すずむし, 108

### 岡山市内のムラサキツバメ 中村具見

ムラサキツバメ *Narathura bazalus turbato* BUTLER は、県下では瀬戸内沿岸部の低山地を中心に局地的な産地が数か所知られているにすぎないが、新たに岡山市北部において次のとおり採集することができたので報告しておく。岡山市内では長野<sup>1)</sup>に次ぐ2番目の産地と思われる。

岡山市下牧 (50m) July 28, 1979 1♀, 1♂

採集地は、金山の東側山麓にあたる下牧の松尾神社社叢の中で、日中、林内の薄暗い低木の葉上から飛び出したものを得た。

この樹林は、県下では数少ないシリブカガシとアラカシを主体に、ヤブツバキ、サカキ、カクレミノ等で構成される暖帯常緑広葉樹林であり、この地方の本来の植生のおもかげをとどめたものといわれている。<sup>2)</sup>岡山県のムラサキツバメは、こうしたシリブカガシがまとまって見られる樹林には、ほとんど常に棲息しているようである。

#### 参考文献

- (1) 岡山県 (1978) 岡山県の昆虫 一岡山県昆虫生態調査報告書一  
なお、この報告の中では既知記録地として採集地名が記述されているだけであるが、未発表の産地と思われる所以詳しいデータを付記しておく。
- 岡山市長野 (高松竜王山北東山麓の渓谷にあるシリブカガシ林) Sep. 2, 1976, 終令幼虫 2 exs. 筆者採集。
- (2) 岡山県 (1981) おかやまの自然。

---

〈訂正とお詫び〉 “すずむし” 第117号、13頁高鉢山(鳥取県)のカミキリムシ追加報告Ⅳにおいて、ルリハナカミキリの学名が違っていたので慎んで訂正させていただきます。

(誤) *Anoplodera azumensis* (MATSHITA et TAMANUKI)

(正) *Anoplodera cyanea* (GEBLER)

(那須 敏・山地 治)

## 滝山において採集したチョウ

尾 関 啓 吉 (岡山県赤磐郡山陽町桜が丘西1丁目14-31)

滝山(1,196.5m)及びその山麓日本原高原において採集した2・3のチョウについて報告しておく。

1. ウスバシロチョウ *Parnassius glacialis* BUTLER

1♀ 29. V. 1977; 1♂ 5. VI. 1977; 3♂ 18. V. 1980

山麓部一帯に分布して、5月下旬多し。

2. メスアカミドリシジミ *Chrysophyryus smaragdinus* BREMER

1♂ 19. VI. 1977

本種は滝神社参道入口の鳥居附近で採集。

3. ミスジチョウ *Neptis aceris* ESPER subsp. *intermedia* W. B. PRYER

1♂ 29. V. 1977; 1♂ 5. VI. 1977

本種は滝神社入口鳥居までの山道で吸水していたものを採集、6月初旬少いながら目撃できる。

4. ヒメキマダラヒカゲ *Harima callipteris* BUTLER

1♂ 19. VI. 1977

本種は滝神社入口鳥居附近で採集、滝山では少いようだ。

以上4種について参考のため報告したが、隣接する那岐山との共通種が多く、特に珍らしいものではないかも知れない。

## 岡山県西部におけるゴマシジミの採集例

門 田 享 (〒726 広島県府中市元町496-3)

岡山県のゴマシジミは県の北西部に集中して記録されており、川上町弥高山が南限となっている。筆者は広島県油木町境の杖立から東に1km入った川上町芳井町境付近の路傍のフレモコウで一頭採集した。分布の南限地付近で、従来記録された場所かどうかは不明である。このあたりから高山市まではゴマシジミの生息には申し分ない環境でまだ多くの個体が発生しているものと思われるが当日はあいにくの曇天で急いでの採集だったので道ばたの一頭しか発見できなかった。

岡山県川上郡川上町 1♀, 16-VIII-'80, 門田 享採.

文 献

倉敷昆虫同好会 (1972) すずむし, 108

# ヒョウモンモドキの飼育による知見

## —飼育二化について—

岡 嶋 秀 紀

(兵庫県西宮市両度町 4-2-204)

ヒョウモンモドキ (*Melitaea scotosia* BUTLER) を卵より飼育したところ、一部個体が二化したので報告する。

### 1. 飼育経過

広島県世羅郡世羅町にて、20. VI. '81に採集した2♀より、現地から移植したタムラソウ（キク科）を用いて採卵を行ない9卵群を得た。その内6卵群をタムラソウで飼育したところ、約300頭が順調に発育し、大部分の個体は三令で摂食を止め、越冬巣中で脱皮し四令の黒色越冬幼虫となったが、10頭の個体はそのまま摂食、脱皮して五令を経て蛹化し、2化として年内に羽化を見た。

以下にその飼育記録を示す。

イ. 飼育環境；西宮市内の団地ベランダ2F、南面しているが、飼育中直射日光は当らない。

ロ. 食草；一～三令は全個体とも卵の産付されたタムラソウ（キク科）を用いた。タムラソウは飼育中、根生葉とともに若い葉や茎が豊富で、幼虫は好んでそれらを食べた。

二化個体には四、五令時にタムラソウとともにマアザミ (*Saussurea* sp. キク科) を与えたが、よく摂食した。

ハ. 発育経過；

産卵、22. VI. ~ 4. VII. 1981、飼育したのは1/VIIまでの卵群。

孵化、8~15. VII. (卵期16日以内)

一眠、12~ VII. (一令期 約4日)

二眠、17~ VII. (二令期 約5日)

三眠、22~ VII. (三令期 約5日)

大部分の幼虫は四令越冬幼虫となり休眠。23~27/VIIに体長12%の四令と思われる幼虫を10頭発見した。三令幼虫の休長は10%前後、四令越冬幼虫は8%で頭部の大きさは両者で大差なかったが、当該幼虫は明らかに一回り以上大きな頭部で、摂食を続けていた。以後ケースに移して室内飼育を行なった。

四眠、27~29. VII. (四令期 約5日)

蛹化、5~6. VIII. (五令期8~10日)

羽化、14~16. VIII. (蛹期は9~10日) 4♂4♀、但し2♂は羽化失敗と片翅奇型。

ニ. 飼育期間の天候; 7月上旬までは梅雨でやや涼しい日が続いたが、梅雨明後は盛夏の高温が続いた。

## 2. 羽化個体の検討

羽化個体（2♂4♀）は野外産に比べ小型である以外には斑紋等に顕著な差異は認められないと思われる。（写真1参照）

♀は4頭が、明るい型からかなり暗化した型まで連続的に変化している。母蝶は2♀とも明るい型であったので、暗化個体の出現は個体変異ではないかと考えられる。

二化個体と手元の各産地の個体（野外産、飼育品）を比較すると以下のようになる。

二化個体； ♂ 24~25% (2 exs.), ♀ 26~27% (4 exs.) 広島県世羅町産； ♂ 29~31% (16 exs.), ♀ 32~34% (15 exs.) 岡山県ひる山産； ♂ 27~29% (5 exs.), ♀ 28~32% (6 exs.) 長野県野辺山産； ♂ 28% (2 exs.), ♀ 27~30% (4 exs.) 同地飼育品； ♂ 22, 23% (2 exs.), ♀ 25~26% (3 exs.) (数値は全て前翅最大巾長。)

二化個体が小型であるのは飼育によるものとも考えられるが、ヨーロッパ産の近似種である *Melitaea phoebe* などは低地で年二~三化する場合、二化以降の個体は一化に比べ小型化することが知られている。<sup>1)</sup> 本種もその法則に従がっていると考えられる。

## 3. 考 察

年二化の問題について若干の考察を試みてみたい。日本に於いてはヒョウモンモドキ類の三種はいずれも年一化とされているが<sup>2)3)</sup> ヨーロッパや北アフリカなどでは年二、三化している近似種があるのは前述の通りである。猪又敏男氏の私信によるとヒョウモンモドキ属をはじめ日本に産する年一化性の種は *Luehdorfia* や *Parnassius*, *Anthocharis* など特別な属を除けば、程度の差はある条件次第で多化性となる可能性があるとのことで、

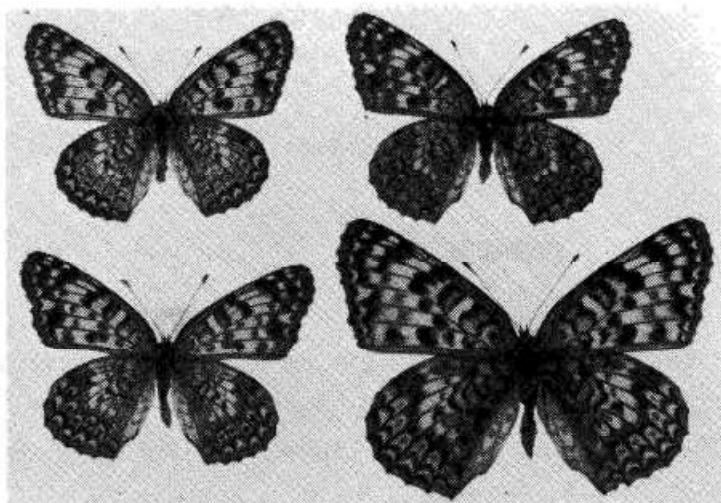


写真1 ヒョウモンモドキ

左上：飼育二化♂

左下： ♂ ♀ (明るい type)

右上： ♂ ♀ (暗い type)

右下：野外産♀ (母蝶と同一産地、最大個体)

\* 81.6.20 広島県世羅郡世羅町

今回もその一例と考えられる。

一方、二化した個体はごく一部（約3%）で、大部分の個体はそのまま越冬したが、どのような条件で決定されるのか興味がある。一応、温度、日長、栄養の量と質といった条件、例えば団地のベランダで、高温、豊富な食草（特に若葉）などの好条件？がトリガーとなつたと考えられるが、同一条件で飼育したにもかかわらず、その出現頻度が極めて低いことから、強い遺伝要素が支配的に関与しているとも考えられる。

本報告は飼育によるものであるが、世羅町付近の産地は、瀬戸内海に近い低山地で、信州やひる山付近の産地と比較すると温暖な気候であり、自然状態で二化が出現することは絶無ではないと思われる。今年は時間がなく、8月下旬から9月の当地の調査を行なえなかつたが、今後、機会をみて実行したい。

この方面に行かれる方は小型の橙色の蝶に注意をしていただきたい。

文末になりましたが、発表に際しさまざまな御教授、御指導をいただいた難波通孝、猪又敏男の両氏に深く感謝いたします。

#### 参考文献

- (1) Higgins, L. G., Riley, N. D.; A Field Guide to the Butterflies of Britain and Europe. Collins London (1970)
- (2) 川福昭人・若林守男. 原色日本蝶類図鑑. 保育社 (1978)
- (3) 白水隆・原章. 原色日本蝶類幼虫大図鑑. 保育社 (1962)

### 大多府島（和氣郡日生）を訪ねて

赤枝一弘

本年大多府島を短時間であるが訪ねる機会があった。この島は比較的植物相が豊富で本格的に採集をすれば面白いのではないかと思う。当日目撃、採集した2、3の種について報告する。

*Chlorophorus quinquefasciatus* ヨツスジトラカミキリ, 8. VIII. '81, 4 exs.

本種は沿岸部には普通かも知れないが報告された記録は少ない。2頭は飛翔中、2頭はミカンの木で採った。

*Papilio helenes* モンキアゲハ, 8. VIII. '81, 2 exs.

ここではアゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、が多く、次いで本種が多かった。ナガサキアゲハは分布していないようである。この日採った幼虫は9月3日に羽化し、採卵した卵からの幼虫は10月4日に羽化した。

当日見なれぬイラガの幼虫をミカンで目撃し、不思議に思っていたが、これはまぎれもなく山陽新聞で県下初として報じられた、東南アジア原産というヒロヘリアオイラガの幼虫であった。ミカンの新害虫であろう。

## 南西諸島のカクモンシジミ

河邊 誠一郎（倉敷市浜ノ茶屋2丁目3-33）

1981年6月18日より約2週間、我々家族4人は、南西諸島の昆虫・植物・自然を求めて、石垣、波照間、竹富、西表島に3度目の旅をした。時期も良し、その成果が大いに期待されたが、子連れの悲しさ、全くの期待はずれに終わった。しかしそんな中で、次の1種は、かなりの稀種であると思われるので、ここに報告しておく。

*Syntarucus plinius plinius* FABRICIUS カクモンシジミ

1♂, 1♀, June 21, 1981 沖縄県竹富島

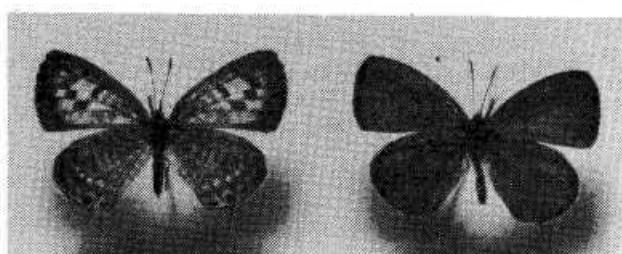
本種は西はインドから、東はオーストラリア、ソロモン群島、北は台湾まで東洋熱帯地域にその分布は非常に広い。（白水隆、原色台湾蝶類大図鑑、保育社）しかし、これまで筆者の知る限りでは、国内での採集記録は、1973年8月、西表島にての2♀のみ（藤岡知夫、日本産蝶類大図鑑、講談社）で、他に1979年11月に、波照間にて採集されたという話 (SATSUMA, 29 (82), 1980) を耳にしているにすぎない。その他にも或程度採集されているものと思われるが、寡闊にして知らない。いずれにせよ、かなりの稀種であるものと考えられる。

当日21日は台風5号通過直後ではあったが、二頭とも新鮮な個体であり、当地で発生したものと思われる。なお、付近には、まだそれらしき個体が、いくつか認められたが、子供達と散歩のついでに何気なく、前後して飛翔する1対のシジミをネットにしたもので、當時、カクモンの存在など全く念頭になかった。そのため多少変わった紋をしているかな、程度の意識しかなく、全くの拾いものといえる。本標本は、昆虫館へ展示予定。

(追記) 上記の報告を投稿した当日、幸いにも、白水隆先生に直接お話を伺うことが出来た。先生のお話によれば、私が偶然の機会に採集することが出来た同じ場所にて私より1ヶ月程前に多数採集されたとの報告<sup>1)</sup>を受けているとのことでした。また、後日、早速に御丁寧なお手紙をいただき、以下に示した文献<sup>2)~4)</sup>を御教示いただいた。御親切に御指導を賜った白水隆先生に厚く御礼申し上げます。

### 文 献

- 1) 山本勝義, ちようちよう 4 (10) : 29, 1981 (10)
- 2) 越 英夫, 昆虫と自然 13 (4) : 29, 1978 (4)
- 3) 森下雅之, 蝶 道 (46) : 195, 1981 (7)
- 4) 渡辺 清, 佐々木茂, 琉球の昆虫 (5) : 25, 1981 (3)



## 岡山県中南部における未記録の昆虫

原 田 裕 康 (〒760 香川県高松市亀岡町 5-3内海方)

『岡山県の昆虫』(倉敷昆虫館発行)に記載されてある「岡山県の昆虫一覧」に基づいて、本年9月までの筆者の採集および目撃記録について、ここに報告しておきます。

- (注) 1. 上記に述べた「未記録種」とは「『岡山県の昆虫』に記載されていない昆虫」という意味で解釈して頂きたい。
2. 採集記録の配列は『岡山県の昆虫』に従った。
3. 標本は、目撃したものと除いてすべて筆者宅(邑久郡長船町福岡453-7)に所蔵されている。

### 1. 岡山県中部の未記録種

1. *Laccotrephes japonensis* SCOTT タイコウチ  
高梁市津川町今津(1ex., 3. VI. 1977; 1ex., 16. VIII. 1977) 水田小溝で採集。
2. *Cybister japonicus* SHARP ゲンゴロウ  
高梁市津川町今津(1♀, 26. VIII. 1975; 1♀, 23. IX. 1977) 伯備線木野山駅構内水銀灯に飛来していたものを採集。
3. *Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY ガムシ  
高梁市津川町今津(3exs., 26. VIII. 1975; 2exs., 23. IX. 1977; 3exs., 20. VIII. 1979; 3exs., 28. VII. 1981) 上記に同じ。
4. *Hydrochara affinis* SHARP コガムシ  
高梁市津川町今津(5exs., 20. VIII. 1979; 3exs., 28. VII. 1981) 上記に同じ。
5. *Ammophila aemulans* KOHI ミカドジガバチ  
高梁市津川町今津(1ex., 28. VII. 1981) 木野山神社参道。
6. *Bombus ignitus* SMITH クロマルハナバチ  
総社市種井(1ex., 28. VII. 1981)

### 2. 岡山県南部の未記録種

1. *Mecostethus magister* REHN ツマグロイナゴ  
岡山市地蔵(1♂ 1♀, 31. VIII. 1981) 龍ノ口神社へのハイキングコースの草むらで。
2. *Parapodisma mikado* BOLIVAR ミヤマフキバッタ  
邑久郡邑久町下山田(3exs., 22. VIII. 1981) 本種は山地性なので、幾分この記録は疑わしい。また改めて調べる予定である。
3. *Tachycines asynamorus* ADELUNG クラズミウマ  
邑久郡長船町福岡(1♀, 7. IX. 1980; 1♂, 1. IX. 1981) 筆者宅内で採集。
4. *Aphrophora intermedia* UHLER シロオビアワフキ

- 邑久郡邑久町尾張 (1ex., 21. VI. 1980)
- 邑久郡邑久町下山田 (1ex., 28. VII. 1981) ここで初夏には多くの幼虫がみられた。
5. *Laccotrephes japonensis* SCOTT タイコウチ  
邑久郡邑久町下山田 (1ex., 25. VII. 1978; 8 exs., 23. IX. 1978); 同町下笠加 (2 exs., 8. III. 1979) 水田小溝の石の下で冬眠していた。邑久郡長船町福岡 (4 exs., 20. VII. 1980; 1ex., 8. V. 1981); 赤磐郡瀬戸町鍛治屋 (11 exs., 21. VII. 1979)
6. *Notonecta triguttata* MOTSCHULSKY マツモムシ  
邑久郡長船町磯上 (3 exs., 7. IX. 1981; 1ex., 1. VII. 1981) 山上にある池で採集。
7. *Rhantus pulverosus* STEPHNS ヒメゲンゴロウ  
邑久郡長船町服部 (1ex., 27. X. 1979)  
同町磯上 (1ex., 8. IV. 1981)
8. *Nicrophorus concolor* KRAATZ クロシデムシ  
岡山市内ヶ原 (1ex., 8. VII. 1980) 吉井川に架る邑上橋の水銀灯下で採集。
9. *Anoplodera rubra succedanea* LEWIS アカハナカミキリ  
赤磐郡瀬戸町瀬戸 (1ex., 23. VII. 1980; 2 exs., 14. VII. 1981) 住田採集。
10. *Tabanus chrysurus* LOEW アカウシアブ  
邑久郡邑久町下笠加 (1ex., 25. VII. 1980; 2 exs., 2. VIII. 1980)
11. *Eupyrgota fusca* HENDEL フトハチモドキバエ  
邑久郡長船町福岡 (1ex., 27. VI. 1980) 筆者宅内で採集。
12. *Euapis basalis* RITSEMA ハラアカハキリバチヤドリ  
邑久郡邑久町下山田 (1ex., 5. IX. 1980) 死個体であった。
13. *Megachile subalbuta* YASUMATSU チビハキリバチ  
邑久郡邑久町下山田 (1ex., 7. IX. 1981)
14. *Bombus ignitus* SMITH クロマルハナバチ  
邑久郡邑久町下山田 (1ex., 12. VII. 1981) カボチャの花に来ていた。

### 3. 岡山県未記録種

1. *Pirates cinctiventris* HORVATH クロサシガメ  
邑久郡長船町福岡 (1ex., 22. VI. 1980) 水銀灯下で採集。
2. *Agriosphodorus dohrni* SIGNORET ヨコヅナサシガメ  
岡山市いずみ町 (1ex., 10. V. 1981; 1ex., 11. V. 1981; 2 exs., 16. V. 1981)  
本種は、既に発表されているが、筆者も県総合グランドのクスの大木で採集できたので報告しておく。羽化の途中であった。
3. *Sirthenea flavipes* STÅL キイロサシガメ  
邑久郡長船町福岡 (2 exs., 採集日不明)
4. *Ranatra unicolor* SCOTT ヒメミズカマキリ  
邑久郡長船町門前 (3 exs., 4. III. 1979; 7 exs., 30. V. 1979); 同町福岡 (1ex.,

27. VII. 1980) 水銀灯に飛来.; 邑久郡邑久町箕輪 (4 exs., 24. VI. 1979); 岡山市一日市 (11 exs., 5. V. 1979; 2 exs., 2. VI. 1979); 岡山市古都南方 (22 exs., 2. IX. 1979; 8 exs., 22. IX. 1979)
5. *Diplonychus japonicus* VUILLEFROY コオイムシ  
岡山市古都南方 (1 ♂, 終令幼虫 2 exs., 2. IX. 1979; 1 ♀, 22. IX. 1979)  
岡山市竹田~中島 (幼虫 2 exs., 10. VIII. 1981) 百間川にある池で採集. なお長船町福岡にある水田小溝には、筆者が養殖して放したもののが少数生息している.
6. *Anisops genji* HUTCHINSON コマツモムシ  
邑久郡長船町福岡 (3 exs., 15. VIII. 1980; 約50 exs., 程度. 24. VIII. 1980); 邑久郡邑久町大下 (5 exs., 27. VIII. 1980); 岡山市南古都 (約30 exs., 程度. 17. VIII. 1980) 休耕田水中に成虫・幼虫共にいた.
7. *Hesperocorixa distanti* KIRKALDY ミズムシ  
岡山市一日市 (2 exs., 2. VI. 1979)
8. *Sigara substriata* UHLER コミズムシ  
邑久郡長船町服部 (1 ex., 27. X. 1979); 邑久郡長船町福岡 (5 exs., 15. VIII. 1980; 2 exs., 22. VIII. 1980); 岡山市南古都 (1 ex., 7. VIII. 1980) 休耕田水中.
9. *Dineutus orientalis* MODEER オオミズスマシ  
邑久郡長船町磯上 (約10 exs., 程度. 8. IV. 1981; 4 exs., 1. VIII. 1981) 同じ池で多数、ミズスマシも得られた.
10. *Dictyonotus purparascens* SMITH ムラサキウスアメバチ  
邑久郡邑久町下山田 (1 ex., 18. VII. 1981) 林の中を飛行していたものを採集.
11. *Stauropteron bombycivorus* GRAVENHORST マダラオオアメバチ  
邑久郡長船町福岡 (1 ex., 27. VII. 1980) 筆者宅横にある小溝に死んで浮いていた.
12. *Dicamptus nigropictus* MATSUMURA クロモンアメバチ  
高梁市津川町今津 (1 ex., 28. VII. 1981) 木野山駅構内を飛行していたものを採集.

## 5. 比較的稀種とされている昆虫の採集記録

1. *Oxya velox* FABRICIUS ハネナガイナゴ  
邑久郡長船町福岡 (1 ex., 30. VIII. 1979; 5 exs., 16~20. VIII. 1981); 邑久郡邑久町箕輪 (1 ex., 21. VIII. 1981) これらの個体は、いずれも水銀灯に飛来したものを捕えたものである.; 邑久郡邑久町下山田 (2 exs., 22. VIII. 1981; 1 ex., 28. VIII. 1981) 邑久郡牛窓町牛窓 (1 ex., 1. IX. 1981)
2. *Vespa crabro flavofasciata* CAMERON モンスズメバチ  
岡山市内ヶ原 (1 ♂, 21. VIII. 1981); 邑久郡牛窓町牛窓 (2 ♀, 1. IX. 1981); 邑久郡邑久町下山田 (1 ♀, 7. IX. 1981) いずれも死個体であった.
3. *Anthidium septemspinosum* LEPELETIER トモンハナバチ  
岡山市平島 (1 ex., 25. VIII. 1981) 住田採集.

## 参 考 文 献

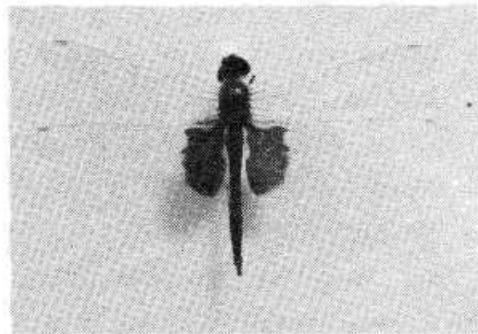
- ①倉敷昆虫館 (1978) : 岡山県の昆虫.
- ②朝比奈正二郎ほか (1981) : 原色昆虫大図鑑Ⅲ, 北隆館.
- ③日本甲虫学会編 (1977) : 原色日本昆虫図鑑 (上) 保育社.
- ④伊藤修四郎ほか (1977) : 原色日本昆虫図鑑 (下) 保育社.
- ⑤石原保 (1979) : 学研中高生図鑑Ⅲ, 学研.

## ハネビロトンボ倉敷市の南部白尾で初採集

熊野皓夫

(倉敷市児島柳田町427-22)

1980年6月29日、倉敷市田ノ口白尾で路上より5m位入ったあぜ上にゆっくり飛び廻っている1頭のハネビロトンボを発見し採集したので報告する。



## 赤磐郡でウスバシロチョウ

尾 関 啓 吉

1979年5月5日岡山県赤磐郡吉井町河原屋において、道路べりの斜面を飛んでいたウスバシロチョウ *Parnassius glacialis* BUTLER 1♂を採集した。当日は快晴で、他の個体は発見できなかった。

赤磐郡からは、今まで記録がなかったと思われる所以、報告しておく。

## 日名倉山のコキマダラセセリ

尾 関 啓 吉

コキマダラセセリ *Ochlodes venata* BREMER & GREY subsp. *hereulea* BUTLER の分布は局地的で、岡山県においても北部山地に点々と産地が記録されているが、県東部の岡山県英田郡東栗倉村日名倉山 (1047.4 m) の中腹で本種を採集しているので、報告しておく。

2♀ 16. VII. 1978; 1♂ 17. VII. 1981.

## 出版物分譲案内

岡山県の昆虫 (1978) B5, 146 pp. 会員1,200円, 一般1,500円, 送料250円  
すずむし, パックナンバー

巻 号	各号分冊価格	巻 号	各号分冊価格
16 (2・3・4合併号)	1,000円 (円120円)	106号	600円 (円170円)
17 (1, 2)	500円 (円170円)	107号	400円 (円120円)
18 (1, 2)	500円 (円120円)	108~117号	1,000円 (円170円)
19 (1・2合併号)	1,000円 (円170円)		ただし110, 114号は円200円)

申込みは送料をそえて、前金（現金、振替、小為替）で本会事務所へ

## 倉敷昆虫同好会顧問

石原 保 先生  
小泉 憲 治 先生  
安江 安 宣 先生  
佐藤 清 明 先生  
杉山 章 平 先生  
白水 隆 先生  
重井 博 先生

## 倉敷昆虫同好会幹事

青野孝昭・安東瑞夫・近藤光宏・中村具見・難波通孝・脇本 浩・那須 敏・山地 治

医療法人

重井病院

倉敷市幸町 ☎ (22) 3655

すずむし No. 118 Oct. 31, 1982 倉敷昆虫同好会発行

連絡事務所 倉敷市幸町(倉敷昆虫館内) 振替口座 岡山1-6927

本部(倉敷市中央2丁目20の1 岡山大学大原農業生物研究所内)

印刷所 岡山県総社市真壁871-2 サンコー印刷株式会社